
メダロットΩデータ

蒼騎士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メダロットΩデータ

【Nコード】

N9625H

【作者名】

蒼騎士

【あらすじ】

登場人物や彼らの操るメダロット、そして最近復活を表明したメダロットのDS版の情報を載せていくデータ集です。本編が分からない人用にどうぞ。

登場人物紹介（前書き）

ここにいる出てるキャラは全体の約半分くらいです。話が進むごとに徐々に充実させていきたいと思っています

登場人物紹介

―主要人物紹介―

・天領イッキ

ご存知メダロット2と4の主人公。ロボロボ団や宇宙からの敵、そしてビーストキングの野望を打ち砕いた後に至上2人目のメダマスターとなる。性格はお人よしで少々回りに流されやすく、勉強は苦手。手でちょんまげが特徴的なごく普通の少年。だがメダロットが大好きで特にロボトルに関しては天才的な才能を持つ。隣町のカリンに思いを寄せているがいまだ友達どまりとなっている。ミュータントの存在を知り、これ以上メダロットも含め誰も傷つけさせないために再び戦いに身を投じていく。

余談だがイッキは地震のちょんまげの髪型に対して並々ならぬこだわりがあるらしくちょんまげを解くことは断固として認めない。

愛機はカブト型のサイカチス。イッキはメタビーと名付けている。

・甘酒アリカ

イッキの幼馴染でジャーナリスト志望。常に愛用のカメラをぶら下げスクープを探し求めるパワフル少女で、たまに学校で校内新聞を作っており中々の評判を誇っている。ちなみに幼馴染とは言ってもイッキには性別を超えた良き友人として接しており恋愛感情はない（と思われるが・・・）。イッキをトラブルに巻き込む人パート1。現在はイッキとともにバトルグランプリに参加しており、その予選時に出会った浦島カイと親しくなる。

愛機はセーラーマルチだが、相手によってはギャラントレディのパーツに換装させて戦う。アリカはブラスと名づけている。

・純米カリン

隣町の金持ちの住むメダロポリスにある花園学園のアイドル。ファ

ンクラブが設立されるほどでその人気は未だ止まることを知らない。イッキとは2の時代に出会いそのときからの付き合い。少々天然でお嬢様なため世間知らずでもある。普段は癒し系アイドルだが1度怒ると全キャラクター中最も怖い。また少々毒舌でもあり知らぬ間に誰かを傷つけてしまうことも多々ある。イッキの気持ちには気づいてない様子ではあるがゲーム本編だとイッキに思いを寄せているような描写も・・・？

作中でイッキとユウトらしき人物が泣きながら戦っている謎の夢を見たらしいが詳細は不明。ゲーム本編と同様、本作でも重要なカギを握っている・・・かもしれない。

愛機は回復系のブレイブナース。主にナースちゃんと呼ばれる。

・辛口コウジ

カリンの幼馴染でイッキの永遠のライバル兼親友。金持ちではあるがそのことを鼻にかけない奴。熱い男であり後先考えず先に進むこともしばしばでイッキをトラブルに巻き込む人パート2。金持ちで頭も性格もよし、ロボットの腕も抜群と一見完璧に見えるが実は虫が大の苦手でイッキのメタビー以外の虫型メダロットも苦手。だがメダロットなら3体までなら何とかなる。ロボットの腕はかなり高く実質上に花園学園最強。

一度『悪魔』の一人であるベルゼブブにボロ負けし、以来その内に『悪魔』に対する憎しみが芽生えレアメダルの力を暴走させかけるが、ヒカルによって止められた。

愛機はトラ型のエクサイズ。基本的にスミロドナットと呼ばれており、コウジとは熱い絆で結ばれている。また二年前にスバルによって力を与えられておりレアメダルと互角の性能を発揮できる後天的なレアメダルでもある。

・神田ユウト

イッキのクラスに転入してきた謎の少年。どうやってもボサボサに

なる髪の毛が特徴でほとんどの時間を寝て過ごしている成績は悪い赤点上等男。また親しくない人にはほぼ無口なため冷淡な印象を受けやすいが根はお人好しで気に入った相手や親しくなった相手に対しては人懐っこい笑顔を浮かべる。集団行動が苦手で空気が読めない傾向がある。ロボトルの腕が極めて高くイツキにも引けをとらない天才的な才能を持ち、その実力はヒカルやイツキが驚愕するほど。実は彼もレアメダルに選ばれた人物で、過去のある事件から『悪魔』のリーダーであるルシファーを激しく憎み追っている。また、スピリットに関する知識、ミズチの過去、悪魔型メダロットやゲーム本編メダロット4でのビーストキングの計画の全貌等、異様なほどの知識を有している。

愛機はカブトと対を成すクワガタ型メダロットのドークスで、ユウトはロクシヨウと呼んでいる。

・あがたヒカル

1の時代の主人公にして世界初のメダマスター。今は猛勉強の末何とか大学に合格し、おみくじ町のコンビニで相変わらずアルバイトをしている（もつとも諸事情からしょっちゅう勝手に抜け出しているが）。イツキ達の良き理解者であり様々なアドバイスを与えてくれる。今は若者達の育成に重きを置いており現役から退いているため現役ほどの強さはないが、今回の大きな戦いのため遂にその真の実力を再び使うこととなる。

バトルグランプリにてコウジと戦い、彼の内にある危うさを危惧して倒す。その際にはレアメダルの力を解放させたコウジとスミロドナットを相手にレアメダルの力を解放させることなくメタビー一機だけで倒した。

愛機は初代のメタビーとロクシヨウ。彼らに使われているカブトメダルとクワガタメダルは二個一対のツインレアメダルと呼ばれる物で他のレアメダルとは一線を画する物らしいが詳細は不明。

・快盗レトルト

自称「華麗なるメダルハンター」であがたヒカルの仕事時の姿。メダロット博士の頼みで数々のレアメダルを悪用されないため回収している。この状態では現役ほどではないが通常のコンビニ店員時よりも遥かに強くなる。多くの人間に変態呼ばわりされているがイッキ・ユウト・カガミヤマはかつこいいと尊敬している。愛機は初代メタビーとロクシヨウに使われているメダルを搭載しているアークビートルDとティレルビートルの二機。

ーサブメイン紹介ー

・メダロット博士（秋葉原アトム）

この世界で知らぬものなしと言われるほどのメダロット研究の権威。いまだその多くの部分が謎に包まれているメダルの研究を今日も続けている。イッキやヒカル達のおじいちゃん的存在。

・秋葉原ナエ

博士の孫娘で幼い頃から彼の助手を勤めている天才。メダロットを心から愛しているイッキのことを見守るお姉さんの存在。2〜4ではほとんど接点がないがヒカルの幼馴染でとても仲がいい（そんな描写は書いていないが作者的には恋人の一手手前的関係）。

・渡鳥カラス

3で登場した赤いバンダナが特徴のキャラクター。ヘブンズゲートに住む総理大臣の息子でありヘブンズゲートでは最強の実力を持つ。当初はロボットをくだらないと考えていたがイッキと出会いその楽しさに目覚めた。以降は彼の良きライバルとなっている。ぶっきらぼうだが根は優しい。

現在はヘブンズゲートでユウキの補佐をしていたが、ヘブンズゲートが襲われ残った人間が彼だけになってしまったため、しばらくの

間はメダロット研究所に世話になっていた。現在はイツキ達のチームメンバーとして大会に参加している。また表面上では彼なりに明るくふるまっているが、心の内では最愛の妹や天空都市を丸ごとさらった《悪魔》の一人であるベルフェゴールへの怒りを忘れてはいない。

今作ではユウトとの間に奇妙なボケとツツコミな関係が生まれてしまい、本来のキャラからだんだん掛け離れつつある。

愛機はG・Oデス。メダチェンジこそできないがその実力は作中でもトップクラス。

・闇雲ミズチ

4で登場したキャラクター。ビーストキングの息子にして四天王の1人で「青竜のミズチ」と呼ばれていた。ビーストキングの野望が潰えてからはイツキのライバルとして互いに競い合っている。4ではイツキのストーリーカー説が浮上していたが真実は定かではない。大会二回戦でイツキ達のチームとぶつかり激闘の末敗北する。姉はイツキのクラス担任の闇雲リユウコ。

愛機は青竜を模したミリヴァイアサン。大会でのイツキ戦においては自身の本当のパートナーのメダルを装着した大悪魔型メダロット・グレインを操った。

・二毛作ユウキ

ヒカルのライバルで御曹司。イツキ曰く「ヒカルさんがこんな雲の上の人とライバルなんて信じられない」らしい。メダロットの腕も確かなものでヒカルとは親友でもあった。今回の事件に誰よりも早く気づくが何者かによって襲われ現在行方不明。

愛機はパピルニア。神型メダロットで相手を思うがままに操れるトップクラスのメダロット。

・浦島カイ

マーマン学院に転入してきた青い髪眼鏡少年。ロボトルの腕が高く、バトルグランプリのアンダーシエル学生メンバーの選手として選ばれる。二年前にイッキが友達になった浦島カイと瓜二つなのが、当時の彼の正体は《水》のスピリット・セルリアーノであるため本来この世界に浦島カイなる人物は存在しないはずなのだが・・・？《黒衣》曰く正体は以前と同じ《水》のスピリットセルリアーノらしいが詳細は不明。

愛機はサイカチスと対をなす黒いカブト型メダロット・ブラックビートル。スピリット以外には扱いこなせない筈のこの機体を完全に使いこなしている。

・雨宮ユネ

ユウトの幼馴染の長い黒髪が特徴的な少女。元々はルシファアの懐刀としてアスモデウスと共に大会に参加しており、素姓が分からなかった頃は黒いフードに身を包んでいたことから《黒衣》と呼ばれていた。ルシファア以外の全ての《悪魔》に対しても敬語を使わないが、それが認められるだけの實力を持っており、イッキとメタビを相手に圧倒的な實力差を見せつけたこともある。その實力はユウトユウト曰く「ルシファアを倒すまで負けるわけにいかないが、そういう理屈抜きだと俺でも勝てないかもしれない相手」らしい。現在はイッキ達と行動を共にしており、イッキ以外のメンバーからは未だ警戒されているが、真面目さと天然が入り混じっている彼女の姿と全く敵意のない態度から徐々に打ち解け始めている。

尚彼女が何故ルシファア達と行動を共にしていたのにそれを裏切ったかについては不明。

愛機はドークスと対をなす黒いクワガタ型メダロット・ブラックスタッグ。彼女もまたスピリットではないのにこの機体を完全に扱いこなしている。

・スクリューズ（キクヒメ・イワノイ・カガミヤマ）

おみくじ町の悪ガキ3人組みでギンジョウ中学校の問題児グループ。だが成長したのか昔ほどの悪さはしていない。イワノイはさらにハッカードとしての腕を磨きカガミヤマは相変わらずきれいだがキクヒメは3のサブイベントから本気で強くなろうとしている。

愛機はそれぞれダークパンサー・ストレイウオルフ・ブラウンバイソン

・秋田キララ

ヒカルの幼馴染にしてイツキのお姉さんの存在の二人の良き理解者。ただのコンビニ店員たるヒカルとは違い、メダロット者に就職しておりその敏腕を駆使して若きエース的存在になっている。彼女もまたヒカルと同じように《快盗レトルトレディ》に変身し、イツキ達を助けるが本小説では今のところ出番なし。ちなみにヒカルが小学3年生の頃からコスプレ変身に目覚めており、当時ロボロボ団と戦っていたヒカルの前に《コマチ》と名乗るメダロッターとしてヒカルをサポートした。現在はヒカルとともに大会に参戦するが、ヒカルをマモンとの戦いに集中させるべくタイヨウと戦った結果敗北し、更にメダルの力を解放する《戦闘》だったためにキララにまでダメージが及び現在意識不明になっている。

愛機は兵器型メダロット・ゴッドエンペラー。

余談だがゴッドエンペラーはメタビー、ロクシヨウに並ぶゲームシリーズ最多出演の人気メダロットである。

・イセキ

本名不明のヒカルが大会の為に招集した昔の友人の一人で初代悪ガキ三人組のリーダー。キクヒメの大人Ver.のような人だが、経験知の差かキクヒメを大きく上回る実力を持つ。性格もまたキクヒメの大人版といった感じの人だが突然イツキを拉致、もとい連れ回すなど色々ともない人。

愛機は現役時代と同じネコ型のマゼンタキャット。キクヒメが以前

使っていたCATシリーズの一番最初の機体で、相手を一定時間動けなくさせる《停止》属性攻撃のスペシャリスト。

・ヤンマ・クボタ

イセキと同じくヒカルが招集した昔の友人で初代悪ガキ三人組のメンバー。彼らもまた、それぞれイワノイとカガミヤマの大人Ver.と呼ぶべき人物達だが、ヤンマにイワノイのようなハッカースキルはないしクボタはカガミヤマより無口。だが二人とも今ではヒカルの良き悪友で、《悪魔》達との戦いに身を投じているヒカルの身を案じている。

愛機はそれぞれシアンドッグとイエロータートル。イワノイ達が元々使っていたDOGシリーズとTOTシリーズメダロットの一番最初のモデル。

・ハクマ

元四天王の一人で、《白虎のハクマ》と呼ばれていた。当時は圧倒的なカリスマ性でトラニシ学院のトップに立っており、彼なりの信念に基づいてメダロット三原則をなくそうとしていた。そのた何も知らずに友人となったイツキに正体を知られた後は互いの考えをぶつけ合い激闘を繰り広げた。今ではイツキの良き友人であり、現在はお付きであるビャクヤと共にトラニシ学院を去り、様々なところを旅してはトラニシ学院のあるシンラ村発展に尽くしている。ミズチと共に大会に参加していたが、カラスとの一騎打ちに敗れる。

愛機はケンタウロス型のクウケンタウロスなのだが、本小説のイツキ戦においては悪魔型メダロットであるベルゼルガを使用しカラスのG・Oデスとサクリファイス対決を繰り広げた。

・コクエン

元四天王の一人で、《玄武のコクエン》と呼ばれていた。ハクマとは違い、当時はりんたろう達の通うカメヤマ小学校の校長の弱みを

握り恐怖と暴力で町を支配していた。また嫁探しの為に各地の学校に自身の親衛隊を向かわせて少女達を誘拐するという非道的なことも行っており、花園学園からカリンを攫ってイッキと四天王の戦いの幕をあげた男でもある。が、スパイとして本人の意思関係なくメイド姿に女装させられたイッキに一目惚れし、それから今に至るまでイッキを愛し続けている。ゲーム中で男だと分かった筈なのに・・・ちなみに親衛隊もメイド少女ファンクラブとなり、りんたろう達一部を除き町の住人ほぼ全てがメイド少女ファンクラブに所属し、日夜メイドの素晴らしさを世界に広めようと活動している。

ミズチ達と共に大会に参加しイッキ達と戦うが、アリカとの一騎打ちに敗れる。その性格のせいか、はたまた前世からの運命かユウトとは相性が合わず、会うたびに取っ組み合いのけんかをしかねないほど嫌い合っている。

愛機はベヒーモス型のチビヘーモスだが、大会ではベルゼルガと同じ悪魔型のブラックメイルを使用。

余談だがチビヘーモスは良い機体ではあるのだが、メダフォースぐらいしか攻撃手段がありません・・・

・闇雲リュウコ

ミズチの実の姉にしてイッキ達の脅威の担任。何故か小学時代に続き中学生になっても担任という謎の事態が起きているが誰もそこには触れていない。ミズチの姉だけあってそのロボトルの腕は並みのものではないが、イッキ達に「メダロットはロボトルだけじゃない」という事を説いた人物でもあり、メダスピードキングやダークロボトルなどの様々な競技を教、イッキがメダマスターを目指す切っ掛けを作った人でもある。もちろんそれらの実力も半端なく、イッキ曰く「強いというより上手い」。本編二年前と四年前にオロチ博士から何かを預かっているらしく、それはユウトにとって必要なものらしい。それを聞かされた後、ユウトがこれ以上《悪魔》や昔の事件に関わらないように賭けに乗り戦うが、ユウトとロクシヨウの前

に敗北。その後ユウトの説得を受けデータを渡した。

愛機は様々な状況によって変わるオールラウンドな人のため特に定まっていないが、大会では父であるオロチ博士が残した悪魔型メダロット・ブロッソメイルを使用している。

・赤金シュリ

元四天王の一人で、『朱雀のシュリ』と呼ばれていた。美しいものをこよなく愛し、自身が通っていたジャクナン小学校もその理念で支配していた。（ちなみに学校には門番がいて門番が認める美しさが入る条件なのだが、コマチの格好をしたアリカとかも認めており基準がどこかずれているような気も・・・）昔は他者を顧みない独裁者のような横暴も行っていたが、その裏はとても寂しがりやな一面を持っており、カリンがいなくなったらまた独りぼっちになってしまふという恐れも抱いていた。現在はカリンの親友としてお互い仲良し。また以前と違って父親ともずっといられるので寂しい思いはしていないようだがかかファザコン気味。後述のキノコとはライバル兼実力は認め合う犬猿の仲。

四天王の中では唯一キノコ、アカガネ博士と共に別チームで出場していたが二回戦でカイ率いるチームに敗れる。余談ですがシュリの名字はゲーム中では元々漢字表記されていないので当て字です。

愛機はワイバーン型メダロットのクウワイバーン。

・舞茸キノコ

四天王に対抗すべくレジスタンスとして結成されたりバティーズのリーダー。変装の達人でもあり、それを生かしてあらゆる場所に潜り込み情報を集めていた、四天王に対抗するため日本中を駆け回ったアイアンガール。ロボトルの腕も並みのものではなく、四天王にも引けを取らない。ジャクナン小出身であり、シュリとはお互いにそりが合わないが実力に関しては認め合っている。また、四天王と戦っていた間に知り合ったイツキのことを気に入ったらしく本気か

冗談か分からないアプローチをたまに仕掛けている。

愛機はキノコ型メダロットのスポアパラソル。

・アカガネ教授

考古学者でシュリの実のお父さん。二年前はシュリの為に世界一美しい石を持ち帰ってあげようとフューンストーンを探して世界中を旅してまわっていた。現在はシュリと仲良く過ごしており、キノコも連れて大会に参戦した。

愛機はタマゴ型メダロットのアンノーンエッグ。

・波島りんたろう

ヒカルの大ファンであり、イッキ以上のロボット馬鹿。三度の飯よりロボットが大好きで、強い奴を見つけては即ロボット！！な少年。レアメダルに選ばれてこそいないものの、その実力はイッキと互角に近く、ヒカルがイッキと同じくメダロットの将来を託したもう一人の人物でもある。二年前はコクエンとの戦うイッキに加勢し共に打ち破った。今回の大会にもメダロット部の面々と共にもちろん参加し、予選ではカラスとも戦ったらしい。二回戦でアスモデウスと対戦し、普通のメダルでも《悪魔》と戦えるようになる装置の力を引き出すだけの實力を見せ、真名を唱えていなかったとはいえアスモデウス操るルクスリアと互角に渡り合ったが、予想外の實力を見せたりんたろう達を脅威に感じたアスモデウスはルクスリアの本当の力を使い、これに敗れた。現在はイッキ達と行動を共にしている。ちなみにルクスリアの幻覚能力さえ何とか出来れば例え真名を唱えられたとしても、ボロボロにはなるだろうが勝てるだけの實力はあるという裏設定ついています。

愛機は軽量カブト型のカンタロス。メタビーそっくりな機体だが、りんたろうのロボットセンスと野生の勘、カンタロス自身の性能も合わせ、普通のメダルにもかかわらずレアメダロットに引けをとらない實力を持つ。

・ 鮫島ハスケ

小学生時代はりんたろうの前の代のメダロット部部长であり、現在はカメヤマ中学メダロット部長でもある人物で、りんたろうにロボトルを教えた師匠でもある。短気で見た目は不良っぽいが気さくな人物でもあり、ロボトルの腕も高いりんたろうがヒカルとは別な意味で尊敬している男。るりよという幼馴染がいて喧嘩しつつも互いを憎からず思っている関係らしいが詳細不明。ちなみに今のところ、るりよさんを出す予定もありません。ゲーム版にはいないので・・・
・・・・今回大会にメダロット部の面々と一緒に出場するが、アスモデウスの前に敗退。

愛機はドギーと名付けたシアンドッグ。ヤンマの使っている機体とは違い最新式に改修されたもの。

― 《悪魔》 ―

・ ルシファー

ミュータントの中でもトップクラスの幹部達、『悪魔』。その中のトップである。見た目は背が高く黒いコートを羽織った長髪の若い青年だが、他の『悪魔』を一言で黙らせる、ロクショウの剣を片手で受け止めるなど底が見えない恐ろしい存在。またメダロッターとしても相当の強者らしく、『悪魔』のメダロットであること、連戦で披露していたことを含めても、メタビー・Bビートル・めたびー・ロクショウの4体を相手に《真名》を唱えず圧倒した。

ユウトと過去に何かあったらしく彼から激しく憎まれている。ルシファー自身もそのことを楽しんでおり「私が憎ければ追って来い」という言葉をユウトに残している。マールブラー曰く「小物のふりをした不気味な男」

愛機はスペルビアと呼ばれる《悪魔》専用メダロット。

・ベルフェゴール

無邪気な少年のような姿をした『悪魔』。ヘブンズゲートを壊滅させ、カラスを除くユウキ達へブンズゲートの人々を連れ去った張本人。カラス、ヒカルと交戦し自らのパートナーを出さずに圧倒するが、ヒカルのレアメダルが特殊なツインレアメダルだったこと、そしてカラスのメダルがレアメダルとして完全に覚醒したことである。場から退散する。以降圧倒的な死の幻影を見せ付けたカラスに強い興味を抱いている。ユウト曰く《悪魔》の2トップの一人。

・マモン

サン格拉斯をかけた不良のような外見の『悪魔』。自他共に認める強欲者で「全てのメダルは俺の物」と言っただがメダロットを道具や獲物とは思っておらず、愛機であるアワリティアを下僕扱いしたり、再会したユウトを格下と侮るなどその性格には難がある。

現在は数多くのメダルが集まるバトルグランプリに興味を示し選手として参加している。予選にてユウトとロクシヨウに戦いを挑むが、彼らの『奥義』を受けて敗北。だがその後に来たアスモデウスの助けを受けて本戦にコマを進め、ユウトへの復讐の機会を狙っているが、大会二回戦でヒカルと対戦し、最初こそ追いつめるがキララが倒れたことにより本気を出したヒカル達に敗れ、アワリティアのメダルも失った。その後《悪魔落ち》になったらしく今まで使ってきた力の反動を受けたがその後は不明。

本名は《芝浦ジュン》というらしく何故彼が自身をマモンと名乗っていたのかは不明。

愛機はアワリティアと呼ばれる《悪魔》専用メダロット。また《真名》を唱えることで龍のように巨大な蛇型の《ヨルムガンド》へと変異する。

・アスモデウス

妖艶な美女の姿の『悪魔』。現在はマモンと共に大会に参加しており、『黒衣』とチームを組んでいる。どこか掴み所のない性格をしているが、二回戦においてりんたろうと対峙した時は意外な強さを持つ彼に危険を感じ冷酷に壊そうとした。カイの活躍によりチームとしては準決勝で敗退するのだが、その後イツキ達の決勝戦にて乱入。イツキ・カイの二人と激闘を繰り広げるが最後はメタビーの一撃で敗北した。

その後ルシファーに連れて行かれたらしいが、どうやら彼女も『悪魔落ち』をしたらしい。

愛機はルクスリアと呼ばれる『悪魔』専用メダロット。『真名』を唱える事で辺り一帯を侵食し捕えた物に悪夢を見せる泥を撒き散らす『ヘル』へと変貌する。

・ベルゼブブ

大柄の少年のような姿をしている『悪魔』。ミュータント1の大食間で、メダルだろうがなんだろうがおいしそうならばなんにでも飛びつく。コウジを病院送りにした張本人だが、そのことがイツキとメタビーを覚醒させる要因となり二人に敗北。

その後過程は不明だが、彼らのアジトにてA N G型とD V L型のメダロットを操る何者かと交戦しこれに敗北。マモン達同様『悪魔落ち』になったらしく、その後ベルゼブブの称号と力は彼を倒した何者かへと引き継がれた。

愛機はグラと呼ばれる『悪魔』専用メダロット。かなり大柄な体型に加え両腕にそれぞれ身の丈ほどの巨大な鉄塊を持つ完全なパワータイプの機体

・レヴィアタン

細身の若い『悪魔』。実力は未知数。

・サタン

全身の肉を無駄なく落とした武道家のような『悪魔』。同じく詳細不明。

・タイヨウ

数年前、真正正銘の悪の集団だった最大規模の勢力を誇るロボロボ団を率いていた男で《魔の十日間事件》の首謀者。

当時小学3年生だったヒカルと幾度もの戦いを繰り広げた因縁の相手であり、彼のメダルを一度壊したこともある。最終的にヒカルとの一騎打ちに敗れ、秘密兵器たるビーストマスターを開放するが制御することが出来ずヒカルによって止められた。その後は凶悪犯罪者としてセレクト隊の厳重な警備の元牢屋に入れられていた筈なのだがいつの間にか脱獄。現在は雇われる形で《悪魔》と行動を共にしておりマモンのチームメイトとしてヒカル達と対戦。マモンとの戦いにヒカルを集中させるためにタイヨウに一騎打ちを申し込んだキララと戦い圧倒的な実力を見せて彼女を意識不明にし、ゴッドエンペラーも破壊した。

愛機は数年前は制御することが出来なかった、世界初のリミッターを解除された三原則のないラスボス型メダロット・ビーストマスター。その凶悪な性能は間違いなく現在でも最強クラス。

―マザーメダロット―

・スバル

二年前にイツキと友達になった宇宙人。マザーとは全てのメダルをつくりし最初のメダロットで、メタビーのカブトメダルを含む多くのレアメダルを生み出したのがスバルである。時を操る力を持ち現

在・過去・未来の全てを見通し、どこにでも行くことが出来る。現在にはルシファーに捕まり洗脳されてミュータントの手に落ちている。

・マーブラー

スバルと対を成すもう一人のマザー。スバルとは違い、地水風火といった元素を操ることが出来る。現在は『コクーン』と呼ばれる物を知っている者としてミュータントに捕らえられている。が、最後の力を振り絞り地球にいる友達、イツキに何かを贈った。

機体紹介（前書き）

今現在はまだ主要メンバーであろう機体の少ししか載せていませんがその内他の機体も多く載せていく予定です。

機体紹介

―主要機体紹介―

《KB T型メダロット・サイカチス（男型）》

《装着メダロットカブトメダル（レアメダル）・使用者―天領イッキ》

【性能】

本小説での天領イッキのパートナーメダロットで固有名称はメタビー。本編であるメダロット2〜3前半までイッキのパートナーであった《メタルビートル》をベースにレアメダルであるメタビーのカブトメダルとイッキのロボット特性などを考慮して開発されたイッキとメタビー専用のメダチェンジ対応型のメダロット。

絶対ヒット&貫通能力を持つ《火薬》属性であるミサイルを4発まで放てる頭パーツ《バリスター》や隙のないライフル弾を撃ち出す右腕の《ヒューザー》、クリティカル率が高いガトリングを撃ち出す左腕の《ブラスター》等から分かる通りバリバリの射撃タイプの機体だが、本作では遠距離から射撃をするだけでなく純粋な殴りや蹴り、零距离から殴りながらガトリングも撃ち出す等の接近戦もこなしている。メダチェンジ後は二脚タイプから街中等のステージを得意とする車両タイプへと変化し、頭パーツに相当するドライブAも技は変わらないが威力が格段に向上する。また右腕に相当するドライブBで砲台を設置し、左腕に相当するドライブCで大砲を放つ《クロス攻撃》はかなりの威力を誇る。更にサイカチスは数少ない二段変形が可能な機体であり、通常のメダロット形態からメダチェンジ形態へと変形した後更に《メダスプレイヤーズ》と呼ばれる特殊パーツを装備することで《クラフィティモード》と呼ばれる最強形態へと変形できる。その力は絶大なのだが特殊パーツそのものが使い捨て使用であること、余りにも強すぎて相手を傷つけすぎてしまうかもしれない等のリスクからこの形態がロボットで使用されたことはない。

必殺技であるメダフォースは全射撃パーツを一斉に放つ最強の射撃攻撃《一斉射撃》と重ねれば重ねるほど攻撃力が上がっていく《威力全開》。本作では未だ未使用のメダフォースやダイレクト判定攻撃以外の全ての攻撃に対して罫を張る《攻撃トラップ》の3種類。

【個性】

レアメダルということもあって他のメダロットと比べるとかなり感情豊かで、イッキとも普通のマスターとメダロットというよりは喧嘩友達のような関係である。我がままであまりイッキの言うことも聞こうとしないが、何だかんだ言いながらもイッキのことを自分の唯一のマスターだと認めており彼が悩む時には発破をかけたり、ゲーム本編のイベントでイッキ以外が自分を使う場面になったときはかなり不満そうにしていた。本作現在ではロクショウに対してかなりのライバル心を抱いている。

《KWG型メダロット・ドークス（男型）》

《装着メダラークワガタメダル（レアメダル）・使用者―神田ユウト》

【性能】

ゲーム版クワガタバージョンでは主人公機であり本作ではもう一人の主人公ともいえるオリジナルキャラ・神田ユウトの愛機で固有名称はロクショウ。ゲーム本編のクワガタバージョンではサイカチスと同じような経緯で生まれたが、本作ではユウトが愛機として使っていた《ヘッドシザース》のデータを基に、ユウトのロボット特性とロクショウのクワガタメダルの力等を考慮してサイカチスと同時期に生み出されたことになっている。もちろんサイカチスと同様完全なるユウトとロクショウ専用のメダチェンジ対応型メダロットであり、メダロット博士は過去のある事件以来息子のように接してきたユウトへのささやかな贈り物としてプレゼントした。

その姿から分かる通りサイカチスとは逆に格闘攻撃に重きを置いた機体であり、射撃攻撃と違ってリスクが高い事を考慮されて全体の装甲値はサイカチスよりもやや高い。センサーの役割を果たす《索的》行動を行う頭パーツ《ツインインコム》でどんな敵も見つけ出しつつ、コンバットナイフのような形状である右腕のソード攻撃の《フォーバイス》で隙の少ない斬撃を繰り返し、左腕に装備されているハンマー《インテンスビート》で相手を粉砕する。メダチェンジ後は二脚タイプから山などのステージを得意とする多脚型へと変化し、この状態になると両腕に相当するドライブBとCに対飛行攻撃の《アンチエア》と対潜水攻撃の《アンチシー》が使用可能になり、ドライブAも強力無比なハンマーへと変わりどんな相手にも対抗できる万能機体となる。が、ユウトがあまりこの状態を好まないため本作では未だ変形していない。この機体もまた《メダシエアーズ》と呼ばれる特殊パーツを装着することで《クラフイティモード》へと二段変形が可能となる。イッキと違い特殊パーツは常に持ち歩いているが本人達は使うつもりが無いらしくこの姿も未登場。必殺技であるメダフォースは相手一体の全てのパーツにダメージを与える音速の斬撃《縦一閃》と敵全体の一パーツにダメージを与える《横一閃》。そして自分を含めた味方全員の索的能力と隠蔽能力を大幅に向上させる《データ操作》の三つである。

【個性】

常に冷静沈着なクールキャラで、どこことなく侍風の言葉を話す。マスターであるユウトがいつもだらしがないのですっかり突っ込みポジションに収まってしまっているが、ロクショウもまたユウトと同じ過去を共有していることもあってか二人の絆はイッキ達と同じくらい強い。

余談だが作者はメダロットは全てクワガタバージョンで通しているのでロクショウに対する思い入れはかなり強いです。

《D G D型メダロット・G・Oデス（男型）》

《装着メダル―マリンメダル（レアメダル）・使用者―渡鳥カラス》

【性能】

死神のような姿をしたカラスが操るメダロット。その不気味な外見から自分のパーツを犠牲にして繰り出す攻撃は正に凶悪。しかし極めて使いにくく上級者向けの機体でもあり、少なくともカラスと同じくらいには扱い慣れていなければ一体だけで戦闘させるのは無謀を通り越して不可能なので、出来れば回復役のメダロットと共に参加させるのが望ましい。だが逆に言えばその条件さえクリアできれば強力な機体であることに間違いはない。特に犠牲攻撃である《サクリファイス》の威力は全パーツの中でも最高クラスで、更に『狙い撃ち』属性でもあるためクリティカルが発生しやすく数値以上の威力が期待できる。また、攻撃パーツではないが頭パーツの《ジェットブラック》は装備しているだけであらゆる光学系の攻撃、つまりレーザーやビームを完全に無効化出来る。全パーツ最強と名高い《プロミネンス》もビーム攻撃であるため、G・Oデスには意味を成さない。脚部もどの地形でも安定して戦える浮遊型だし、両腕はともかく頭と脚部パーツの装甲は決して低くはないので、カラスのようにちゃんと使いこなせるものがマスターになった場合は正に死神と言える力を見せるだろう。

必殺技であるメダフォースは敵一体を標的にダメージを与えその分を自分の装甲値に与え回復させる《生命ドレイン》と《横一闪》。そして自分を含め味方全ての壊れたパーツを一つだけ《復活》させる《全体レスト1》。

【個性】

装着しているメダロットのパーツの影響か、はたまた元々なのかは不明だが至って無口。会話をしようとしても「……」としか言わず（というより何も言わない）コミュニケーションもとりにくい。が、カラスとはちゃんと意思疎通出来ているらしくどんな有

事にも息のあったコンビぶりを発揮してくれる。

《STG型メダロット・エクサイズ（男型）》

《装着メダラーエースメダル（レアメダル）・使用者―辛口コウジ》

【性能】

コウジが愛用していたサーベルタイガー型メダロット《スミロドナット》をメダチェンジ対応型に改良した機体がこの《エクサイズ》である。呼び名は今もスミロドナットで通しているが、全体的にフォルムがスマートになり特徴的だった右腕の牙のようなソードも三本から二本へと変わった。

基本的な能力は同じで、対射撃攻撃用のトラップを仕掛ける頭パーツ《インサルト》は余程のレベル差やトラップ解除能力を持っていない限り射撃攻撃をしてきた相手に大きなダメージを与えられる。また形状は変わったがそれでも特徴的な右腕の牙のような《シンソード》は《がむしゃら》行動なだけあってかなりのリスクを背負うが、《がむしゃら》行動は脚部の《推進》が高ければ高いほど威力を発揮するのでスピードタイプであるエクサイズの驚異的速度によって驚くほどの切れ味と威力を誇る。左腕の《ソリッドハンマー》は隙のない《殴る》行動で、威力も中々ある。普通のメダロットならば右腕の攻撃をボクシングで言うところのジャブ、左腕の攻撃を一撃必殺のストレートで例えられるように右腕を隙のない攻撃、左腕を隙は大きいが当たればデカイ一撃を出せるということを想定して作られているのだがこの《エクサイズ》は逆に右腕の方が強力な一撃になっている数少ない例外と言えるだろう。この機体もまたサイカチス・ドークスと同様に《クラフィティモード》への変形を可能としており、ゲーム本編メダロット3では他の二機とは違い特殊パーツではなく、スバルから力を授けられて変形した。尚本作ではレアメダルの力を解放させればその時の記憶が蘇り変形できるよう

になっている。

必殺技であるメダフォースは自身の攻撃に《光学》属性を加える《光学化3》と《火薬》属性を加える《火薬化3》、《重力》属性を加える《重力化3》の3種類。しかも単に属性を加えるだけでなく普通よりも更に上のレベルへと昇華させる。（例えば《光学》属性の攻撃は普通威力血の2倍のダメージを与える特性を持つが、《光学化3》は2倍ではなく4倍のダメージを与えられるようになる。）

【個性】

一般的なメダロットと同じように、マスターであるコウジとは主従のような関係に至っている。が、かなりの熱血且つスパルタであるコウジと上手くやれているのはやはり凄いと言えるだろう。もっともスミロドナット自身特徴的な個性が無いというわけではなく二年前に（ゲーム本編・メダロット3の最終章参照）宇宙でレアメダロット達の足止めを買った時は敵の余りの強さでコウジが危険な目に合いそうになったのを身を呈して助け、それ以上危険な目に会わせないために「先に行ってください。さもなければマスターを斬ります！！」と三原則がかかっているにも関わらずそれを行動で示していた。それ以来はマスターであるコウジとの間の絆が少し深まったらしい。

余談だが本作では上記のスバルから力を授けられた下りで普通の一般メダルだったスミロドナットにマザーの力が宿り、メタビーやロクショウと同じようなレアメダルの力が引き出せるようになった《後天的なレアメダル》へと進化している。

《KBT型メダロット・ブラックビートル（女型）》

《装着メダル―Bカブトメダル（レアメダル）・使用者―浦島カイ》

【性能】

話はメダリンピックが開催されて、マーブラーがまだ敵だった頃の

話。メダリンピック第4試合の会場であるアンダーシエルへと向かったイッキ達はその頃すでに二人のスピリットと戦い、これを退けていた。そんな中アンダーシエルの海底森へと誘導された二人を待っていたのが、水くを司るスピリット・セルリアーノと三原則を完全に外された闇のカブト・ブラックビートルだった。全てがメタビーと正反対だというこのブラックビートルは基本ステータスがメタビーを全て上回っている。技の威力、成功値、装甲は言うに及ばず、当時のメダルのレベルもメタビーを上回っていた。セルリアーノのロボット技術もイッキと遜色無いレベルに加えてリミッターを外されて制限が無いという恐らくはイッキ達にとってブラックデビルを除けば恐らくは最強の敵だろう。もし今再び対峙したとしてもイッキ達は自信を持って勝てるとはい切れない程の力を持っている。

攻撃手段はサイカチスと同じくミサイルを撃ち出す《ブラックバリスタ》にライフル攻撃の《ブラックヒューザ》、ガトリングの《ブラックブラスタ》と一見名称と形状が違うだけのように思えるが、前述の通りその性能はサイカチスを凌いでいる。対してメダチェンジ変形後は比較的どの地形でも安定して戦える戦車型になり、小回りと速さが売りのサイカチスとは対極の重戦車のような外見と性能になる。他のメダロットの行うシフトチェンジとは違う珍しいパワー変形のメダチェンジで、変形しているだけで常にメダフォースを消費していくがそのリスクを補って余りある圧倒的な破壊力を持ち、攻撃内容が変形前と変わらないにも拘らず、変形前よりもさらに凶悪な破壊力を見せつけてくる。

必殺技であるメダフォースはメタビーと同じ《一斉射撃》でパーツの性能の高さ故にメタビー《一斉射撃》のを圧倒する威力を誇る。他には相手を全て《混乱》状態に陥らせて狂わせる《全体混乱》、そしてブラックビートル最強最悪の最終必殺技は今まで受けたダメージを自身の攻撃をプラスして相手に返す《ダメージ玉》だ。ピンチであればあるほどに威力を増す逆転の最終技である。

【個性】

タイプとしてはメタビーと正反対と言うだけありどこことなくロクシヨウと同じような言動と性格をしているがこちらは結構好戦的。パーツも女型のものだが性格としてはむしろ男の方らしい。

元々はスピリットとの戦いの後メダロット社によって回収され、リミッターであるメダロット三原則をつけた上でイッキに託された。その後紆余曲折があり一度はイッキの元から取り上げられるも《悪魔騒動》（ゲーム本編メダロット4の隠しシナリオ参照）にて再びイッキの元に戻った。それからしばらくの間はメダロット博士のいる研究所にいたのだが、半年ほど前に急に一人で旅に出て以来消息がつかめず大会本戦にて浦島カイのパートナーとして再び姿を現した。この世にブラックビートルは一体しかないなのでこの機体は本人であるはずなのだが、今までどうしていたのか、何故カイの元にいるのかなどは本編で語られる予定である。

《ADV型メダロット・グレイン（男型）》

《装着メダロープラントメダル（レアメダル？）・使用者―闇雲ミズチ》

【性能】

メダロット4ゲーム本編で、四天王を束ねていたミズチの父・ビーストキングが当時の科学力を結集して開発させた究極のメダロットの一体。対となす大天使型メダロット・パーティクルと同時に開発された大悪魔型メダロットで、そのメダルには過去不幸な事故により死んでしまったミズチのパートナーメダロットのメダルが使われている。

見た目は大きな頭をした赤ん坊のようにも見え、メダフォースを使用不能にする《フォース制御》が使用できる頭パーツ《デモリッシュ》に相手の行動を強制的に指定しそれ以外使えなくさせる右腕の

《ドローン》、相手の装甲を4分の一まで削るスタティックの左腕《ルーイン》と変形前とはにかく補助系の攻撃が目立つ。が、変形後は完全な戦闘タイプに変わりドライブAは絶対ヒット&クリティカルの《アサッシン》。ドライブBは当たれば確実に相手のパーツを破壊する《デストロイ》、そして時間が経てば経つほど威力と成功率を増すドライブC《タイムアタック》に加え全地形で有利に戦える浮遊型スピードが速い等全てが最強クラスのトンデモ兵器になる。が、変形前の能力を見て分かるように行動が統一されていない為そう言う意味でバランスが悪く、更にとてつもない力を持つメダロットなので普通のメダルでは力をフルに引き出せないのが弱点である。

必殺技であるメダフォースは相手全体を常にダメージを食らう《継続》状態にする《全体継続》、味方全員の2パーツの装甲のダメージを回復させる《全体リペア2》、そして《生命ドレイン》である。

【個性】

前述の通り元々は死んでしまったミズチのパートナーを彼の父親であるビーストキングが復活させたのだが、ヘベレケ博士に師事したのが為に目的が世界征服へと変わってしまいその結果作られたグレインのメダルとなっていた。だがイッキとグレインと対をなす大天使型メダロット・パーティクルによってビーストキングは敗れ、直後に転落。かなり高い所から落ちたため命が危なかったその時グレインがクッションとなって助けたのだが結果としてメダルが真つ二つに割れ再び亡くなってしまった。そのメダルをレトリートが回収しメダロット博士に届け、博士もイッキ達の思いに応えるべく必死になって再び目覚めさせるために日夜頑張っていた。だが二度も亡くなってしまうことに加えてビーストキングがかなり無理をさせていたせいで中々上手くいかなかったが、近作でようやく蘇らせることに成功した。しかしやはり後遺症が無いわけではなく言語機能は著しく退化しておりあまり喋ることが出来ず、ミズチとの昔の思い出もの多くも忘れてしまった。現在はグレインのパーツと共にミズチ

の手に戻り彼の愛機として新たに絆を築きつつある。尚ユウトがレアメダル専用であるはずの秘密兵器の試作品をミズチの姉であるリウウコ先生に渡し「グレインを操れたメダルなら扱いこなせるはず」と述べていることから彼のメダルもまたレアメダル、あるいはそれに近い力を持っているとされる。

《KBT型メダロット・めたるびーとる（男型）》

《装着メダロットカブトメダル（レアメダル）・使用者―あがたヒカル》

【性能】

メダロット開発初期に作られた初のKBT型メダロットにして固有名称兼愛称はめたびー。以降も《めたるびーとる》は改修が何度か行われており、装甲や安定性などが高められた《メタルビートル》（イッキの相棒・メタビーの最初期のパーツでもある）が開発されているが、この初期型の《めたるびーとる》はもうこの世にヒカルが所有するこの1体しか存在せず、1パーツだけでも何百万という金が動くプレミアム価値を誇っている。もつとも、その価値を知らない最近の若者達はこの機体を（改修後の《メタルビートル》に対してもだが）「旧式のオンボロ」と蔑む者もいるが、当時メダフォースがまだ解明されておらず純粋な機体性能とロボットルセンスのみが物を言ったヒカル達の時代で共に最強の座を掴み取ったことからとも言えるように、決してオンボロなどではなくむしろ現在にも十分通用するスペックを持っていることが伺える。ちなみに古い機体とはいえヒカルはこの機体に強い思い入れがあるので当時の性能を維持するべくメダロット博士の元でメンテナンスなどを行っていたため、使いこまれていながら新品同様の体になっている。

攻撃手段はサイカチスなどのKBT型と同じで頭から強力なミサイルを4発まで放つことが出来る文字通りの《みさいる》、正確無比

なライフル射撃で敵を撃ち抜く《りぼるばー》、狙い撃つガトリングの雨で敵を粉碎する《さぶましんがん》の3つ。初期型ということもあってか全体的に装甲は現代のメダロットと比べれば紙ともいえるほどに薄い、その分攻撃力は遥かに高く《メタルビートル》や《サイカチス》等の主人公カブト機と比べても段違いのパワーを誇る。尚機体名とパーツ名が平仮名表記なのはヒカル相棒・めたびーとイッキの相棒メタビーとの差別化の為。

必殺技であるメダフォースはカブト特有の《一斉射撃》はもちろんだが、他はヒカルのカブトメダルが第一世代ということもあってイッキのカブトメダルとは違う。第2のメダフォースは使えば使うほどの攻撃力などの性能が増加する《バーサーク》で一見《威力全開》と同じように見えるが、《バーサーク》の方は使えば使うほど好戦的かつ凶暴な性格になっていく一種の麻薬的な一面がある。といっても中毒性があるわけでもないしロボトルが終了した後しばらく休ませれば元に戻るが、使いすぎれば最悪の場合ヒカルの言うことも聞かないモンスターにもなりかねないためヒカルはあまり使わないようにしている。そして最後のメダフォースは体の色がよりメタリックな物になり姿もより鋭利に鋭く変質する究極のパワーアップメダフォース《ラストフォルム》である。この《ラストフォルム》は他の2種と違って重ね掛けが出来ないが、ただ一回の発動で他を圧倒して余りある究極の力を得ることが出来る。その強すぎるパワー故に体にかかる負担も大きく、長く使っていると最悪オーバーヒートを起こしティンペットやパーツが蒸発。メダルも最悪の場合死に至る可能性があるためヒカルは《バーサーク》以上に使わないようにしている。

【個性】

イッキのメタビーと違い礼儀正しくマスターであるヒカルにも敬意を払う（イッキ曰く「僕のメタビーとは大違い」）。が、それはあくまで長年共に過ごし当時に比べれば落ち着きを手に入れたからであり昔はメタビーと同じようにかなり好戦的だった（それでもヒカ

ルへの敬意は忘れていなかったらしいが）。現在は後述のアーキビートルDの姿で活動しておりこの状態ではアーキと呼ばれている。第一世代メダルのサガかG・Oデスほどではないが無口なのだが、本人的にはこちらの姿もお気に入りらしい。

このカブトメダルと《めたびー》はヒカルが初めて手にしたメダロットで、現役時代この機体と共にヒカルは知る人ぞ知る最強の座へと昇り詰めた。

《KWG型メダロット・へっどしぎーす（男型）》

《装着メダラークワガタメダル（レアメダル）・使用者―あがたヒカル》

【性能】

《めたるびーとる》と同じくメダロット開発初期に誕生した初のKWG型にして固有名称兼愛称はろくしう。《めたるびーとる》同様やはりこの機体も何度か改修されており、上と同様《ヘッドシザース》が開発されているが（以下省略）この機体も「旧時代のオンボロ」などと蔑まれる程に古い機体だが、当時最強だったヒカルと《めたびー》のコンビをパートナーもなしに互角以上に渡り合ったことから言えるようにその性能は決して低くない。（というか作者的にオンボロとか言った奴は許しません、もしそんなことを言ったら消しますよ？）

攻撃手段は《ドークス》と同様の相手の弱点を正確に見抜く《あんでな》他、隙の無い鋭い斬撃攻撃である《ちゃんばらそーど》、一撃必殺の拳である《びこぺこはんまー》の3種。やはり《ヘッドシザース》や《ドークス》に比べて紙装甲だが、その分攻撃力はこちらが圧倒的に高い。

必殺技であるメダフォースはロクシヨウ同様《縦一闪》と《横一闪》といった2つの必殺斬撃。そして第一世代のメダル故にロクシヨ

ウとは違う最後のメダフォースは、全メダフォースを右腕に凝縮して斬るのではなく叩き割り粉碎するように振り下ろす《唐竹割り》。その破壊力、一点の威力ならば全メダフォース中最強クラス。

【個性】

ロクシヨウ同様どこか侍風の言葉で喋るがやはり基本無口。だがこれは昔の話で今はめたびー同様落ち着きを持ち丁寧口調となっている。こちらも普段は後述のティレルビートルの姿で活動しており、この時はティレルと呼ばれる。が、本人いわく余りこの姿は好きではないらしい。理由は後述のティレルビートルの欄で明らかになるだろう。

ちなみに《ろくしゅう》との馴れ初めはヒカルが《魔の十日間》を解決した後出会った元野良メダロットで、出会ったばかりの頃は何度も《めたびー》と火花を散らせた。その後気が合うようになり助けが必要なら助太刀してくれるような友人関係となったが気付けばいつの間にかヒカルの相棒の一人になっていた……という小説オリジナル設定です。

《KBT型メダロット・アークビートルD（男型）》
《装着メダローカブトメダル（レアメダル）・使用者ー快盗レトルト》

【性能】

ヒカルが快盗レトルトの姿の時に使用する相棒の一体で、全メダロット中最強の一角ともいわれる《アークビートル》にメダチェンジ機構を搭載したメダロット。全体的な装甲と速さ、そして攻撃力は若干下がったが、メダチェンジ後はアークビートルと互角かそれ以上の性能を見せるメダロットへと変化する。

攻撃手段はメタビー達と同じく速度重視のライフルを放つ《スカッター》と威力重視のガトリングを放つ《スプリング》の2つに加え

て、強力無比なレーザーで敵を貫く《アペンディクス》だ。アークビートルとこの機体のみ頭パーツの攻撃が《火薬》属性のミサイルではなく威力を重視する《光学》属性の攻撃だが、どちらも貫通効果あり。

メダチェンジはBビートル同様パワー変形で、メダフォースを消費して変形する。この状態になると攻撃力が圧倒的に高くなり変形前と比べて強化されたそれぞれの攻撃が相手に襲いかかる。尚、アークビートルの最強兵器である《プロミネンス》と比べ、頭パーツ・ドライブA共に攻撃力では及ばないが連射性があるため、そう言う意味で攻撃力は劣っていない。

必殺技であるメダフォースは《めたびー》と同じ。

【個性】

上述の《めたるびーとる》参照

《KW型メダロット・ティレルビートル（男型）》

《装着メダルクワガタメダル（レアメダル）・使用者―快盗レトルト》

【性能】

アークビートルの対を為すべくして生まれた天駆ける青きノコギリ。今までのクワガタメダロットとは違ってパワー&重量型クワガタとして開発されており、両肩に備え付けられたクワガタの顎を思わせる凶悪な右の刃《リッパー》と左の刃《ハンガー》で敵を斬り裂く。また、頭パーツの《スクワイア》は敵衛感知という能力を備えており、これによって近くにおらず遠くに離れている相手に対しても斬撃を届かせることが可能になっている。

アークビートルD同様にメダチェンジはパワー変形で、その際には格闘タイプから《光学》《重力》《火薬》の3属性全てを備えた射撃型メダロットへと性能を変える。ドライブBは命中率が高いブレ

イク、ドライブCは絶対ヒットのナパーム、そしてドライブAは圧倒的威力のレーザー……。だが、元々の性能が格闘タイプであるために変形後のステータスに対応できるメダルは今のところ存在していない。《ろくしょう》がこの機体を嫌う最も大きな理由である。

メダフォースは《へっどしざーす》参照。

【個性】

上述の《へっどしざーす》参照

《KW型メダロット・ブラックスタッグ（女型）》

《装着メダル―Bクワガタメダル（レアメダル）・使用者―雨宮ユネ》

【性能】

《ドークス》と対を為すダークサイドのクワガタメダロット……。たとえば簡単だが、やはりBビートル同様にこの機体もパワー、スピード、その他全ての面においてドークスの性能を上回っている。唯一の救いとしてはサイカチスとBビートルの関係とは違い、まだドークスにもついている隙があることだろう。

攻撃手段は基本的なKW型と変わらない。だが頭の《ブラックインコム》は《ツインインコム》や《アンテナ》以上に的確に相手の性能を見抜き、右腕の《ブラックバイス》の斬れ味は《フォーバイス》の比では無い。そして左腕の《ブラックビート》の破壊力は《ブラックメール》並み。変形前の状態で戦えば、ドークスにはまず勝ち目がない。少なくとも本小説中の二人はメダルレベル《レアメダル》としての格、そして互いのパートナーのロボットセンス全てに大した違いがないために、単純な性能差でBスタッグに軍配が上がるだろう。だが、上でも言った通りドークスにはついている隙がある。Bビートル同様パワー変形のメダチェンジであるBスタッグの変形

後は両腕を翼のように見立てた飛行形態となり、その速さは音速を超えるほど。変形前と比べてパワーアップした攻撃で相手を粉碎する以外にも、その純粋な速さだけで充分な脅威となりえる。が、先にも言った通りBスタッグの変形後は飛行タイプなのだ。つまり変形後ドークスのドライブBの《アンチエア》がひどく有効な相手ということでもある。速さでもパワーでも劣るドークスが勝つためにはこの弱点を突く以外にない。

必殺技であるメダフォースはロクシヨウと同様必殺の一撃《縦一閃》の他に、敵全ての行動を封じる雷《全体停止》、そして全メダフォースの中からランダムに選ばれたメダフォースを自在に扱う《ランダムチェンジ》の3種。最後の《ランダムチェンジ》は《レアメダル》の力を解放することでランダムではなく自分の知っているメダフォースの中から好きな物を選択することが出来るようになり、その恐ろしさは言うまでもない。

【個性】

ロクシヨウと対になる存在だからか、性格はメタビー同様短気でガサツ、それでいて好戦的とひどい。が、マスターであるユネの言葉には素直に反応し、彼女の言うことにのみ従う。

《KLN型メダロット・ウォーバニット（男型）》

《装着メダル―不明・使用者―不明》

【性能】

ゲーム版メダロット・クワガタバージョンにてコウジが愛用しているキングライオン型メダロット。言うなれば《クワガタ版メタビー》であり、その戦闘スタイルも《メタビー》に近い物がある。

《メタビー》達の項で取り上げているようにこの機体も射撃型。右腕の《シュートバレル》と左腕の《レンジシューター》のそれぞれから放たれる《ライフル》と《ガトリング》で相手を正確無比に撃

ち抜く。その威力と精度は《メタビー》の物をやや上回っており、射撃型メダロットを愛用するメダロッター達はこの機体のパーツを一部分でも自らの機体につけさせることも珍しくはない（最も本小説で登場するメダロットはほぼ全て純正だが）。

この機体が《メタビー》と明らかに違うのは正に獅子の鬣をモチーフにしたこの機体の代名詞ともいえる頭パーツ《テンションアップ》の存在だろう。このパーツは《メタビー》と違って《火薬》属性の《ミサイル》を放つ物ではなく、その名が示す通り全身にエネルギーを行きわたらせ一定時間移動速度を上げることが出来る《補助チャージ》という能力を持つ。これは味方であれば任意の対象に施すことが可能であり、時として《ロクショウ》や《スミロドナット》といったスピードタイプのメダロットを上回る程の速さを授けてくれる。

必殺技であるメダフォースは不明。

【個性】

ユウトやユネからはレオと呼ばれており、彼らとは親しい関係であることが窺えるが現状での関係性は不明。その性格は飄々としていているが兄貴分として彼なりにユウト達を見守っている。が、ユネ曰く「昔は今とは真逆の厳しく堅い性格」だったらしく、ロクショウにはトラウマを植え付けているらしい。

ユウト達の事を弟や妹のように大切に思っており、彼らを守っていくことが亡き自らのマスターとの約束であるらしく、彼らの友達になってくれたイツキに対して深い感謝の念を抱いている。

《SIN型メダロット・シンセイバー（男型）》

《装着メダル―しのびメダル・使用者―神田ユウト》

【性能】

誰もが知っているであろう伝説の幕末の志士達である新撰組をモチ

ーフにして作られた侍型メダロット。右腕には刀を持ち、道着や袴を意図して作られたその外観は多くのメダロッター達から高い人気を誇っており、この機体その物が稀少な事も相まって高いプレミア価値を持っている。

この機体の代名詞とも言える刀が示す通り、全体的なステータスは格闘攻撃に重きを置いてる。右腕に持つ刀は新撰組局長が愛用していたとされる刀をモデルに作られた《コテツザンゲキ》と銘打たれたパーツで、高い威力・成功率を兼ね備えており、全格闘パーツの中でも上位の強さを誇る。左腕の《レップウシャウト》は意外にも遠距離の相手を牽制するためなのか《ガトリング》を放つための隠し銃が備わっており、純粋な射撃型メダロット達の物と比べてもあり遜色が無い性能を誇っている。そして頭パーツの《ミブウルフ》は頭に巻かれた伸縮性の鉢巻を解くことで相手を縛りあげて《束縛》する《ホールド》攻撃で、この機体が放つソレは常識を打ち破るかのようにその威力も高い。

他の追隨を許さぬ近接戦の強さに加えて遠距離にも対応出来る武装に格闘メダロットに相応しき速いスピード。それでいて装甲も硬いという「ロボトルの常識を破壊するメダロット」と言われたこともあるその規格外の強さは、後に回収され性能を調整し直した第2世代型が誕生したほどである。ゲーム版で言うところの2・R世代と4世代と言えば簡単だろうか？本作中に登場するメインキャラの《シンセイバー》は当然ながら初期型の方である。

必殺技であるメダフォースはランダムで威力と標的が変わる珍しいタイプの攻撃で、第一世代のメダルらしく《プレゼント》《ターゲット》《ロックオン》の順に攻撃力の変動と標的を選ぶランダム性が高くなる。標的候補には発動した本人も入っており、成功した時は強力な攻撃を相手に与えるが、失敗すれば自身や仲間とその攻撃が降りかかる可能性もある珍しいタイプのメダフォースである。

【個性】

マサムネ言う名で呼ばれたかつてのユウトの相棒。「拙者」や「ご

ざる」と言った侍風の口調で喋り、穏やかで面倒見の良い性格だった彼はユウトやユネにとってはパートナーである以上に大好きだった兄で、マサムネにとってもパートナーである以上にユウトやユネは大切な弟や妹であった。その為、彼らに危害を加える者には一切の容赦はしない。

本編では既にその命は失われており、そのためなのかどうかは知らないが、諸々の事情から色々なメダロットを使用する機会が多いユウトもこの機体だけは絶対に使わない様になっている。恐らく彼にとっての《シンセイバー》はマサムネただ一人だけという強い思いからなのだろう。

メダロット用語集（前書き）

はい、今更ながら用語集です。おせえよとか言わないでくださいね。一応ちゃんと調べて載せておりますが良く分からなかったところは私的解釈とか小説に都合のいい設定にしてる部分にしてるところもあるんで完全な史実ではありません。尚ゲーム版準拠です。

メダロット用語集

・メダロット

作者達が生きているこの現実よりもちよつと科学が発達した世界で、テクノロジーが生み出した全く新しいロボット。人間で言うところの骨格である基本フレームの《ティンペット》に人工知能《メダル》を搭載して動かす【メダルで動くロボット】、略してメダロットである。

この世界での通り名メダロット博士こと秋葉原アトムが世に送り出し、お友達ロボットとして子供から大人までに愛され広く普及しており、人々と共に共存している。世間ではマスターと呼ばれるメダロットの使い手―これをメダロッターと呼ぶ―指示するメダロット同士を戦わせる《ロボトル》が普及しておりこれの世界大会まで開かれるほど。しかしその一方でメダロットを悪用する人々や犯罪組織も増え、これに対抗するべく防衛組織や様々な法が定められた。

メダロットは人と同等かそれ以上の意志や知能を有する頭脳にあたる《メダル》と骨組みや筋組織に当たる《ティンペット》、それに対応する《頭パーツ》《右腕パーツ》《左腕パーツ》《脚部パーツ》《を組み合わせることで完成する。また《ティンペット》には男性型と女性型の二つが存在し、男性型に対応するパーツは女性型の《ティンペット》には装着できず、逆に女性型に対応するパーツは男性型の《ティンペット》には装着できない。メダルに関しては全てのどちらの性別の《ティンペット》にも対応している（ただしやはりメダルにも性格があるのでその辺りも注意する必要がある）。

・メダル

メダロットの頭脳にして命。本編の数十年前に様々な遺跡で発掘さ

れた一種のオーパーツ。メダロット博士はこの謎の物質の持つ未知の力に目を付けて脳の代わりとすることで当初夢物語とされていたロボットの開発を進め、それがやがて《メダロット》を生み出した。メダルには先の記述通り遺跡などで発掘される《レアメダル》とそれを培養して人の手で作り出した《人工メダル》の二つが存在し、言うまでもないが世の中に存在するメダルのほとんどはこの《人工メダル》である。どちらのメダルにせよ、そのままではあまりにも危険な力をどちらも秘めている。故に人々は簡単には外せない《メダロット三原則》と呼ばれるリミッターをメダルにかけてその力を抑えている。他にも《六角貨幣石》と呼ばれる石化したメダルやまだ命（力）が宿っていないメダルもときも存在する。

中心部には《コア》と称される小さな宝玉が埋まっており、メダルの中で最も重要な部位である。この《コア》さえ壊れていなければ外傷がひどくとも長い年月がかかることもあるが修復は可能とされており、逆に言えばこの部位が壊れてしまえばそのメダルは完全に死んでしまう。

最近の研究によってメダルは宇宙人が地球に住む人々へと贈ってくれたプレゼントだという説が濃厚になり、メダルの秘密を解き明かすこと＝宇宙の神秘を知ることが出来る可能性が高いとみて日夜研究が行われている。それでも未だメダルについてはまだまだ未知の部分が多い。

尚小説内で使われている第一世代、第二世代などの区分は単純に発掘された時期の違いによるものだが区分してある境と同時にメダルの性質が少し変化している設定。

・メダロット三原則

メダルにかけられているリミッターで、

第一条『わざと人間を傷つけてはならない』

第二条『人間に危険が降りかかるのを見過ごしてはならない』

第三条 『第1条と第2条を破らない範囲で他のメダロットに致命傷を与えず、上記の二つに反しない限り己を守る』

の三つで、悪く要約すればリミッターがかけられている限りメダロットは人間に支配されているということになる。この事実に疑問視する者も少なくなく、作中ではストーリーに絡むことが多い。人とメダロットが付き合っていく中できちんと考えていかなければならない問題でもある。

・ ロボトル

巷で流行っている遊びにして、現在では世界大会にまでなっている全国共通の国民競技。

最大で同時に3体まで出して戦う事が出来、リーダー機の頭パーツを破壊した方が勝ちとなる。

実にシンプルで分かりやすいルールだが、ロボトルに使える技は基本的な射撃攻撃のライフルやガトリングに格闘攻撃のソードやハンマーの他にも相手に必ず攻撃が当たり尚且つ1パーツでも破壊したら別のパーツにも攻撃が及ぶ《火薬》属性ののミサイルやナパーム、破壊力抜群の《光学》属性のレーザーやビーム。更には相手の動きを停止させるサンダーやフリーズ、条件さえ満たせば相手のパーツを必ず破壊するデストロイ等バリエーション豊かな攻撃技の他、味方への攻撃を身を挺して守る防衛行動や壊れたパーツを直す技、更には必殺技的位置にある《メダフォース》や特定の純正パーツを装備することで変形する《メダチェンジ》等様々。どのような技を選びどのような戦略を立てるかはその個人の自由なのでメダロッターの数だけ戦術があるといっても過言ではない。果たして貴方ならどのような戦術で敵と戦うのだろうか？

余談だが、ロボトルによっては射撃パーツ禁止や手持ちのメダロット全てを使って戦う総力戦など特殊な条件下で戦うものもある。

・メダフォース

それぞれのメダルが三つまで持っているメダル固有の必殺技で、それを発動するために必要なエネルギーのことでもある。場合によっては別々のメダル同士いくつかメダフォースが被っている場合もあるが、メダルによって能力は違うので同じメダフォースでも同じ効果が得られるわけではない。

必殺技といってもやはりここでも色々なバリエーションがあり、相手の全てのパーツを斬り裂きダメージを与える《縦一閃》の様な攻撃技から相手全ての動きを封じる《全体停止》、味方全員のパーツを癒す《全体リペア》等幅広い。ちなみに作者はクワガタVer派なので特に《縦一閃》がお気に入り。

・メダチェンジ

特定の純正パーツを装備することで変形することをメダチェンジと呼ぶ。この状態を《レクリスモード》と呼びこの形態になると大抵の場合脚部のタイプや攻撃手段が変わる他、全てのパーツが一体化して特定のどれかのパーツが破壊されるというようなことはなくなる。逆に変形前にパーツが一つでも欠けていたら変形できない。

メダチェンジには二つの種類があり、一般的な《シフト変形》とメダフォースを消費して変形する《パワー変形》がある。後者は前者の変形と比べて強力なものが多いが、メダフォースが尽きると変形が強制的に解除される。

更に特定のパーツを装備することで《レクリスモード》から《クラファイティモード》と呼ばれる二段階変形が出来る機体も存在するが、《クラファイティモード》の力は余りにも強大すぎるためやむ追えぬ事情がない限り使用されることはない。この状態に変形で斬る機体は少なく確認されている限り、サイカチス・ドークス・エクサイズ・ユニトリス（今のところ小説では未登場）、設定のみで本編には姿

を現していないがブラックビートル・ブロッソメイルの計6体しかない。

・レアメダル

遺跡などで発掘される稀少価値の高いメダル。一般的に《人工メダル》との差はあまりないように思われるが《レアメダル》はより個我が強く、時として常識を覆すような強大な力を扱う事がある。その力は使いようによっては世界を変えうる可能性もある程のパワーを有するが、ほとんどの場合は自身の持つその強大な力に気が付いていない。ゲーム版メダロット3において実はレアメダルは《マザー》と呼ばれる存在が自らの力の一部を分け与えたものだという事が判明した。

本小説内のレアメダルは現在、

第一世代 ヒカル有する《カブト》と《クワガタ》 《しのび》
《ドラゴン》 《エンジェル》 《デビル》 《せいぎ》 《あく
》 《エイリアン》 《ぼとるろ》更にその頂点に立つ3枚の《ネ
コ》 《？》 《！》

第二世代 イツキ有する《カブト》 ユウト有する《クワガタ》
カラス有する《マリン》 コウジ有する後天的なレアメダルの《エ
ース》 《Bカブト》 《Bクワガタ》

となっている。く有すると記してあるのは全てのそのメダルがレアメダルというわけではないため。

——小説内用語——

・悪魔

最近になって姿を現し始めた組織。キリスト教の七つの大罪がモチーフとなっており、リーダー格のルシファーを筆頭にベルフェゴール・サタン・レヴィアタン・マモン・アスモデウス・ベルゼブブの名を冠する7人で構成されており、《悪魔》という呼称は組織名を表すと同時に彼ら7人を指す言葉でもある。彼らは皆人の姿をしているが、その残虐性は人のそれを超えており、中には体組織まで人とは違う構造をする物まで存在する。また中心となるのはこの7人だが彼らの他に通常のメダロットでは戦いを成立させることすら許されぬ異形のミュータントメダロットを大量に従えている他、何人かの一流メダロットもメンバーにいるらしい。

表立った活動は全く行っておらず、イツキ達もユウトから聞き、直接対面するまでその存在を知ることなかったがユウトの発言から結成されたのは随分前の様である。

イツキ達が通学2年になってしばらく経った本編、ユウトがイツキ達と出会う前後の時期に本格的に行動を開始し始め、各地で怪事件を起こした後大量のメダルを、特にレアメダルを入手すべく大会に乱入した。

その真意、目的は一切不明。

・ミュータント

過去にアンドロメダル星と戦争をした宇宙人。好戦的な性格と恐ろしい残虐性を併せ持ちアンドロメダル星を滅ぼそうとしたがマザーの力で撃退され絶滅した筈だった存在。

幾人かの生き残りがいるらしく、自分達を滅ぼしたレアメダルへの復讐のために《悪魔》を組織したとされているが……？

彼らもまた、アンドロメダル星とは違う技術でメダロットを完成させているが、地球などで見かける一般的なメダロットとは違いあくまで敵を滅ぼすための異形のメダロット達である。彼らと対抗できるのは莫大なフォースを秘めたメダル、つまり《レアメダル》のみでその他のメダルでは勝つことはおろか戦いを成立させることすら

不可能。この偉業にして凶悪のメダロット達を指してミュータントと呼称する場合もある。

メダロットDS情報!! その1 (16日後書きに情報追加) (前書き)

この話は本編の枠に投稿した時と内容は同じです。メダロットDSの情報が更新されていくと同時にこの話も更新されていきます。

メダロットDS情報!! その1 (16日後書きに情報追加)

皆さんこんにちは蒼騎士です。今日は趣向を変えつつ番外編をお送りいたします。伝えたい情報もあるのでねフフフフ……
「オイ作者。まだ俺達の物語終わってねえのに勝手に別作品書き始めたと思ったら今度は何なんだよ? ヒカルさんの第二試合が始まる話ほとんど書き終わってんだろ?」

「珍しくまともなことをユウトが言っている……!? まあそれはともかくとして確かに解せんぞ作者。なぜ今頃こんなことをするのだ?」

おお、ユウトにロクシヨウ!! 丁度いい時に来たなあ。お前らも参加しろよ、作者命令だ!!

「はあ!? ちよっお前作者だからっていい気になんなよ!! 行けっロクシヨウ!!」

「……ユウト、今は話の流れ上どうやら俺のリミッターが外れているか否かについて議論されているらしいんだぞ? ここでそんなことをしたら後々の展開がバレルかもしれندらうが。悔しいがここは作者に従うとするぞ。」

「何言ってるんだロクシヨウ!! こういうやつには一発思い知らせてやるのが一番なんだよ。それにそのことなら心配するな。ここは作者も介入する不思議空間。そしていわば作者は神同然の存在にして人間どころか生物にもあらず!! 三原則を破る条件なぞ一切ない!! さあやっちゃまえ!!」

チィ!! その手があったか……!! マズイな。

「無駄だと思うがな……まあ一発攻撃すればお前らの気も晴れるか? というわけで……『縦一閃』!!!!」

ズバアアアツツ!!!

[illegible]

……ふう、やれやれ。やられた……！　なんて言うと思ったのか物語のキャラクターの分際で……！！

「な、何い！？ 全く効いていない……掠り一つ負っていないだ！？」

お前が言っただろう？ここは作者も介入する不思議空間。そして俺は神同然の存在だど！！その通りさ。故にこの空間では核ミサイルを何発持ってこようと俺には通じないのだ！！！！

「嘘だろ！？　ここではお前は『悪魔』以上の力を持っているというのか！？」

「だから無駄だと言ったんだ……とりあえず落ち着けユウ
ト。今は作者の言う通りにするぞ。」

「グヌヌヌヌ・・・・・!!!!」

ふっ、たまには現段階作中最強キャラコンビをいじめるのも悪くはないな。しかしお前らは結構気に入っているキャラなんだぞ？俺だってメダロットシリーズは全部クワガタバージョンで通してるんだからな。

「そうそう、なら何でお前主役キャラの愛機をロクシヨウにしなかつたんだ？ カブト機じゃあ書きにくいだろ？」

いやいや、これが面白いことに俺の兄貴の方がカブトバージョンでそろえていてな。それをまじかで見ていたが故に苦勞こそするが書くのは何とかなっている。そしてなぜロクシヨウを主役機にしなかったかだが・・・・・・

「それは？」

いやあ今までメディア展開してる奴ってさあ全部主役がカブト機なんだよねえ。まあだからこそクワガタで挑戦とも思ったんだけどさ

あ、この小説書くにあたっていろんな奴の意見を募集した結果『主役はカブトだろ?』って意見が圧倒して仕方なく……

「そんな理由!？」

「落ち着けユウト。俺は別に主役でなくても構わんと思ってるぞ?メインというだけで充分だ。」

くうくろクシヨウは謙虚だなあ……。だからこそお前の方を主役にしてやりたかった……。!!

「(こうは言ってるけどロクシヨウのつてば絶対ふてくされてるんだよなあ……。)」

「何だユウト?お前カラスだけでなく俺からも制裁を受けたいのか?俺は奴と違って優しくないぞ?(ギロリッ)」

「(さりげなく無視)と、ところで話が全然進んでないぜ?さっさと伝えたい情報でやつに移ろうじゃないか!!」

「(逃げたな……。)」

(最初に妨害したのはお前だろうが……。) そうだな。それじゃあ始めるぞ!!

※※※※※※※※※※

では早速発表だ!!聞いて驚けよ!!!

「ゴクリ……。!!」

「(少しは緊張するものだな。この空気)」

そう、全国のメダロット大好きな君達にもそうでない人にも伝えた
いBIG NEWS!!それは……

『それは?』

メダロットDSカブト／クワガタバージョンで発売決定だああああ
 あああああああああああああああああああああああああああ！！！！

『な、何いいいいいいいいいいいいいいいいいいいい！？』
フハハハハハハ俺もさっき本屋でファ●通読んで知った情報なんだけどな。成長したイツキらしき人物が新主人公にメタビー（初期のメタルビートルだな）を渡してる画面や、DSならではの戦闘画面も見つけたぜ！！新主人公の名前やメインキャラとおぼしきもの達の名前や設定も公開されてたし、ロボット画面を見る限りサイカチスやゴーフバレットも参戦するようだ！！もちろん愛すべきロボロボ団や新型のカブト&クワガタ機もな！！

「そ、それは真の情報なのか……！？この世界にはエイプリルフールなる風習があるというが……？」

フツ安心しろ。公式サイトもほとんど情報こそ載っていないが作られている。さっき見てきたからな。それだけじゃない、原案である

ほるまりん先生から『9月中に公開できると思います』というメッセージも届けられている!! 何よりもあのアドバンス版での悲劇・『真型メダロット』のような悲しいグラフィックではない!! もう最近のゲームしか知らない連中に『メダロット? ああ、あのダメな絵のクソゲーね。』なんてコメントは言わせないつつ!!

「で、では俺の姿は!? ロクショウかドークスの姿はあったのか!」

いや、残念ながら見つからなかった……だがまだ情報が足りないしメタビーは出てるんだ。お前だって出る可能性はかなり高いぜ。

「そうか……DSへと舞台は変わるが再び俺達が暴れられるのか……!!」

その通りだ!!! フハハハハハハ……ってどうしたユウト? さっきから押し黙って。一言も発してないぞ?

「ふふふふ……いや嬉しくなっちゃってな。遂にこの俺、神田ユウトが人々の姿に現れることができると思うとな!!」

いや、お前は100%出ないぞ。

「何iiiiiiiiii!」

当たり前だろ、お前はこの小説限定のクワガタ型メダロットを操るオリキャラなんだから。俺のオリキャラがゲームに出てくるはずないだろ?

「い、言われてみれば。そうだよ……そうさ、俺には関係ない話じゃないか……あゝあ、はしゃいで損しちゃったぜ。」

すねんなよ。大丈夫、この小説はまだまだ続くしお前の出番もテンコ盛りだぜ? 正直主人公であるイッキよりも美味しいポジションだ。「ふんっ!! まあいいけどよ……けどそっか、メダロットが再び始動し始めたか……今度は『真型』の時みたく大失敗しないといいよな。」

「うむ。その前から兆候はあったがあの『真型』を機にメダロット人気は廃れてしまったからな。出来ればこのまま再びアニメ化、プラモ化、カード化等様々なメディア展開をしていったほしいものだ。」

いや、それはがつつきすぎだろ……。まあそれはともかく確かにこれを機にメダロットが再び人気になるといいよな!! また皆とロボットで盛り上がりたぜ♪

「公式サイトにはまだまだ情報は無いが、これからどんどん増えていくだろう。皆も楽しみにしてくれ。」

「おっと!! たとえ作者の書き方が下手だからって俺達が出てる『メダロットΩ』も忘れんなよ? まだまだ戦いはこれからだからな!!」

そうだな。まあ欲を言えばもう一つの小説の方もよろしくといいたいところだが、最近は全く手をつけてないから3話でストップしてるしな。メダロットΩが終われば本格的に始められるんだがどうやらこいつらとの付き合いはまだまだ続きそうだな。

「それでは作者よ。今回はこの辺りで幕引きとしようか?」

「そうだな。長すぎるのも面倒だろ。また何か情報が入ったら作者が書いてる駄文……。もといブログか、今回見たいな形式でお伝えするぜ。」

それじゃあ今回はこの辺で!!

「「さらば!!!!」」

メダロットDS情報!!その1(16日後書きに情報追加) (後書き)

―情報番外編―

皆さんどうも蒼騎士です。今回も番外編と言うことでメダロットDSに関する(?)情報を。フム今回はユウト達はいないか……。・作者権限で強制的に呼び出すこともできるのだがまあ書くこと少ないし、いつか。

さてかなり短い情報ですがどうやらほるまりん先生がマンガを再び書くそうです。おそらくはメダロットの漫画だと思うけれど……。・公式サイトによれば今度の18日発売のデングキニンテンドーDSで連載開始だそうです。いやあ一体どんな話なんでしょうね? やっぱりマンガ版の続きからなのかそれとも完全新作なのか? 興味は尽きませんねゝゝもしかしたら新情報とかのつてたりして! ? 皆さんも18日は店頭へGOしましょう!!

メダロットDS情報!! その2 (情報少ないんで途中からカオスモードに!?)

ガタガタガタガタガタガタッッ!!

これで準備は整ったな・・・・・・よし、点呼始め!!

「1!!」

「2!!」

「3!!」

「・・・4」

オ——————ケエエエエエッ!! それではこれより
会議を始めたいと思う!!

「はいはいっ!!」

ん? なんだユウト?

「こんなところで会議してないで小説の本編を進めたほうがいいと
思います!!」

イツキ、メタビー、やれ。

「『了解』」

ガシィッ!!

「ところで作者。今日の議題は一体……?」

うむ。今月のデンゲキニンテンドーDSの新情報をお伝えしようと思っ
てな。まあ新情報は限りなく0に近かったんだが……

「もったいぶらずにさっさと……すみませんすみません
!!邪魔しないでどうか続けて!!」

よろしい。まあさっきも言ったが新情報はほとんどないんだけどな。
あるとすれば……

「え?あ、あのなんで僕を見てるんでしょうか?」

イツキ。

「は、はい?」

お前のメダロットDSの参戦がほぼ9割がた決まったぞ。

「『!?!?』」

「え、え!?!」

ふふふふ……驚いた?

「あ、ああ驚……くわけねえだろうが!!んな情報は
もうメダロットDSの情報が初めて出たときから……」

果たしてそうかな？

「あ？」

良く考えてみる。確かにイッキラしきコンビニ店員が新主人公にメタビーを渡しているシーンは既に出ていた。が、今まで一度だってそのイッキラしきコンビニ店員がイッキラ本人だと言及されていたか！？

「え、そりゃあ……」

『……されていないな。』

そう、誰もがイッキだと思わざる追えない風貌だったが、イッキ本人だということは別に明言されていなかったんだよ。間違いなくイッキだと思われてはいたがな。

「え、じゃあなんで今回で僕が出ると……」

マンガで新主人公との会話が会ったんだよ。コンビニのレジで写真を広げていてな、そしてその例のイッキ似の男の名札に書かれていたのが《てんりょう》の文字！！つまりはお前の名字だな。更にお前はその写真を「知り合いのジャーナリストもどきがくれた」と言っていた。ジャーナリストもどき、つまりそれは言及こそされていないがほぼ100%アリカのこと！！ちょんまげに、てんりょうという苗字に、ジャーナリストの知りあい！！ここまでの条件を出しておいてお前以外とかあり得ねえだろ？

「た、確かに……」

『お、じゃあ俺は俺は！？イッキが出てるんだから……』

出てないぞ。

『なにいいいいいいいいいいいいいい!!?』

ま、しゃあねえんじゃない? つうかもしお前の姿があったとしても、だ。

『なんだよ?』

ヒカルさんとその愛機達と同じような仲になってたりしてな。つまり……

「……」

「……」

「……」

『……』

……ゴメン。忘れて?

「そ、そうだね。僕らは何も考えなかった!!」

「お、おうそうだな。」

『少しは面白いとも思ったが……よく考えると怖気がするな。』

『嫌だああああああああ!! そんなキャラは絶対に嫌だああああああああ!!』

おわっ!! ちよっ、暴れんかって!! 悪いロクシヨウ、メタビーのバカを止めてくれ!!

『その前に一つ、聞きたいことがある。』

え？な、何？

『今回こそ、俺の姿はあったんだろうな？新型のクワガタ機ではなく、ロクシヨウやドークスの姿は？』

え、いやあその……

『マンガではライバルキャラが新型クワガタを操り主人公達をボコボコにしていたようだが……元々そのライバルキャラが使う期待はコウジ系統のものだ。俺のようなクワガタタイプじゃない。それ以前に当然、俺の姿はあったんだろうな？』

い、いやあまだいつ発売かも分かんないし。それにホラ、まだ製作段階でありまして……

『無かったんだな？』

え、だからその……

『無……無かったんだな？』

……ハイ。

『……そうか。』

ゴメ……って！？

「あれ、ロクシヨウどこ行くんだ？」

『なあユウト、この不思議空間を斬っていいか？』

やっぱりっ！？

「ああ、いんじゃない？」

お前も何言ってるんだ！？

「そ、そうだよユウト！！いくらなんでもそこまでは……」

「分かってくれイッキ！！既に出番が約束されているお前と違って、俺達は希望がないんだ……っっ！！」

いや、ロクシヨウはともかくとして希望がないのはお前だけな？

「よしロクシヨウ。滅多斬りにしちゃえ♪なんだったら本編でも使っていない、メダシェアーズを提供してやるぞ♪」

え、えええ！？おまつ、俺の許可なく使っていないと……

『頼むユウト。メタビー、お前も暴れたいんだろ？ユウトがクラフイティモードになれるパーツを提供してくれるぞ？コイツ全クラフイティモード対応メダの強化パーツ持ってるからな。』

『マジか！？おっしゃああああああ、んじゃヘブンズゲート以来のあの姿になって暴れまわるかあ！！』

「ちょ、ユウトそれ本当！？君はなんてものを……！！」

「いや、本当ならロクシヨウ用の奴しか持ってねえんだけどさ、ここ何でもあり空間だし？何とかなんだろ。」

しまった……まずい、このままだとこいつらのせいでこの空間が崩壊してしまう……！！
かくなるうえは！！

格、あいつ人間嫌いだった!!

「何て奴を呼び出したの作者!？」

「おいおい………ビーストファクトなんか獣化してるぞ? 両手がゴスペルの頭化してるぞ!？」

あれはまさか………その昔エグゼシリーズの小説も書こうとしていたころに考えていた、フォルテ獣化状態による《ダブルバニシングワールド》か!？

【フォルテ、お前の好きにはさせないぞ!! はああああああパーフェクトシンクロ!!!!】

ああああああ!!!! こっちはパーフェクトシンクロ・サイトス
タイル状態からによる獣化、しかも作者一番のお気に入り形態スラ
ッシュクロス付き!?! 熱斗は呼んでないのになんでパーフェクトシ
ンクロでさんの? とか突込みどころは満載だがやばい、かえってヤ
バイことになってるぞ………!!!

「くっ、かくなるうえは………ロクショウ!! 標的変更だ、
目標はフォルテ!!」

「メタビーも!! ロクショウと一緒に!!」

『仕方ないな。』

『お、つええ奴発見だ!!』

え、なんかますますヤバイ予感が………

【消えろ!! ダブルバニシングワールド!!】

【止めて見せる!! アルティメットブラスター（エグゼ2ネタ）!
!】

「つて終わらせんなあああああああああああああああ
あああ!!!」

メダロットDS情報!! その2 (情報少ないんで途中からカオスモードに!?)

.....すいません。ちょっと息抜き程度に書いてたらとんでもないことになっちゃいました.....それにしてもなぜ未だにクワガタメダの情報来ないのかなあ? ロクショウじゃないけどグレそう.....まあ、今ゲームはOSSで満足だけどさ。ちなみに現在OSSはカラードマン倒したところから進んでません。別にダンジョンが難しいというより(というかMAP付きのせいでメチャ簡単に)シリーズ第一作目のリメイクだからなんだか懐かしくて.....進めたいという気持ちよりも懐かしさの方が強くて進める気にならんのですねえ。まあ、そろそろ進めますが。さて、本編ですが明日には上げられそうです。乞うご期待!!

メダロットDS情報!! その3本編はもう少し待って.....

どうもお久しぶりの蒼騎士です。いやあ、いつの間にか暦の上では別れと始まりの季節に.....

「コラ作者、何呑気に挨拶してんだボケ。メダロットの小説を中途半端なところで止めやがって。お前はあれか? 「何言われても自己満足の為に書いてるんで完結までちゃんと書きます」とかほざいてたのにめんどくさくなって止めたのかああっ!?!?」

い、いきなり出てきて怖いこと言うなよユウト。仕方ないだろ? 俺だって暇じゃない。つうかまだ大学受験終わってねえんだよ、情けないことに。今回だって何とか時間作って新情報を伝えに來ただけですぐ帰るし。

「新情報?」

ああ、今サイトに行ったら早期購入者特典なるものが出ててな。なんと早期購入者にはカブトとクワガタでそれぞれ30枚のメダロットカードセットがもらえるんだと。

「30枚!? 太っ腹だなあ.....しかもそれぞれってことは両方とも買えば合計60枚か。遊●王なら一つのデッキ作っても余る数だな。」

いや、それが同時購入者には抽選で限定プレミアムパックも付いてくるんだと。つまり上手くいけば60枚以上のメダロットカードが手に入るってわけだ。

「へえ、やるねえメダロット社。」

ま、今更カードって言われてもなあ。俺達はガキじゃないんだぜ？
そんなんで喜ぶわけねえだろ。大体メダロットファンがどれだけこの
時を待ってたと思ってるんだよ。カード60枚じゃとてもじゃない
が足りない……

「……とか何とか言いながら何だよその目から流れる俺は？
まるで自身のように揺れる体は！？お前メチャクチャ喜んでるじゃ
ねえかよ！！」

クッ、当たり前だろっ！？お前ふざけんなよこれで喜ばないわけな
いだろうが！！60枚だぞ60枚！！しかもそれぞれホログラムレ
アが6枚ずつですよ！？こんなんじゃないって奴もいるかもしれ
ねえけど俺はメッチャ欲しいんだよ文句あんのかワリヤア！？

「逆切れすんな！！で、参考がてらどんなカードがつくんのだ？」

ああ、カブトバージョンなら新型カブトのガンノウズに新型タイガ
ーのマカイロドウス。それからちよっと分かんねえけど多分ベルゼ
ルガと初代メタビーかな。他は分かんねえ。

で、クワガタバージョンなら新型クワガタのサンジューロ二新型ラ
イオンのマーサイモラン。これまた自信ねえけどアークビートルに
初代ロクシヨウかな。ちなみにプレミアムパックにはゴッドエンペ
ラーがつくっぽい。

「クワガタでアークビートル？訳分かんねえな。」

だから自信ねえんだよ。まあ詳しいことは公式サイト行って確認し
てくれ。じゃ、時間ねえし俺帰るわ。マジで勉強しねえと。

「受験終わったらちゃんと続編書けよ？」

わあってるよ。では皆さん、誠に申し訳ありませんが本編の方はもう少しお待ちください。

メダロットDS情報!! その4 (発売まであと1月!!) (前書き)

公式サイトが更新されたのでここも更新します

メダロットDS情報!! その4 (発売まであと1月!!)

さて、毎度おなじみメダロットDS情報です。今回は話の都合上ユウトが昼寝中なんでアシスタントはロクシヨウだけです。

『本来ならば俺も休憩に入る予定だったのだが……致し方あるまい。』

うんうん、ユウトにもその言葉聞かせてやりたいね。あいつにお前の爪の垢を煎じて飲ませてやりたい。

『俺に爪の垢など無いが……で、今日はどういう情報だ?』

もう知ってる人もいるかと思うが公式サイトでシステムページが追加されたんだよ。内容はロボットの基本ルールと通信の内容だった。

『ふむ、この小説内では描写をアニメよりに行っているせいかな今一口ボトルの雰囲気は伝わりにくいからな。これからメダロットを始める人たちの為にも詳しい説明を頼む。』

もちろん。まあデータ集にも少し載せたんだが、大まかなルールとしては

・最大3VS3のチームバトルでどちらかのリーダー機の頭パーツが破壊されたら終了だ。

基本的に指示を出すのは俺達メダロッターなんだが、その指示を受けてどういう風に行動するのは基本的にメダロット自身が決める。まあこういうところはポケモンよりも具体的に感じるな俺的に。

ここで分かるようにメダロットに装着されているメダルの性格によって、真っ先に狙うパーツは変わってくるんだ。例えば3や4の時代の《カブト》や《クワガタ》は大抵の場合まず脚部パーツを破壊して機動力を削ごうとするしな。まあ俺のゲームでは一時期いきなり頭パーツを狙っていたこともあるが……

他にも装甲が最も高いパーツを狙っていく《ビークル》や適当にパーツを攻撃する《ウエスト》などメダルによって様々だ。だからこそメダルの性格に合ったパーツを選び的確な指示を与えることが重要だ。

後リーダーの頭パーツが破壊されない限り判定勝ちでもなければ負けはないからな。回復系、防御系、補助系等様々な役割分担をしとくのも効果的だな。全機超攻撃型の短期決戦型でもありかもしれんけどww

後メダルには得意な行動―DSではスキルという名称になった―がある。《クワガタ》なら殴る、がむしゃら、守る。《カブト》なら撃つ、狙い撃ち、設置とかな。いくらメダルとパーツの相性が良くても得意でないスキルのパーツを付けさせてもあんまり意味はないぞ。まあコウジのスミロダットみたいな例外はあるが、アレはゲームのキャラだから例外だ。

そして作中でも必殺技として書くことが多いメダフォース！メダロット―諸君には残念なお知らせだが、どうやら一つのメダルにつき覚えられるメダフォースは3つから2つに変更されたみたいだ。公式サイトにはもうネタばれんだけど《クワガタ》のメダフォースで《からたけわり》と《サイドスラッシュ》という名称で書いている。これは縦一閃と横一閃の新表記だろう。

『他にも全シリーズまでと比べてパーツ全体の装甲が高くなってるな。115とか120とか180とか。』

こうしてみるとホント防御タイプのメダロットはどんだけなんだろうな？もしガンキングが再登場したら1パーツ500とかもあり得るかも知れんぞ……………

『ところでクワガタメダロットの情報はいいのか？既に発表されていると思っていたのだが。』

ああ、それな。うんまあ一応は。どうやら《ロクシヨウ》、つまり《ヘッドシザース》のパーツも続投するみたいだ。

『それは良い知らせだ。しかし《ドークス》と新型クワガタの情報はどうだったのだ？』

ドークス以下メダチェンジの情報は相変わらず無しだ。けど新型クワガタの情報なら……………

『ゴクリ……………』

……………ロクシヨウ、どうやら今までのクワガタメダの時代は終わったらしい。

『な、何……………!？』

驚くなよ？どうやら歴代クワガタの代表的装備ともいえる右腕のソードは……………

がむしゃら行動になったらしい。

『な、何だっ!? 今まで隙のない殴る行動だったソードがスミロドナットと同じ切り札のがむしろ行動へと変わったというのか!』

ああ……. しかもそれだけじゃない。もうひとつ特徴的だった左腕のハンマー。あれな、廃止されてる。

『ば、バカな!? 俺もユウトもあまり好きではないとはいえハンマーは切り札の左腕だぞ!? そ、それを廃止するなどとは…….』

そして代わりに殴る行動のサンダーになった。

『ア・k・j・g・k・f・g・h・d・d・f・j・b・s・h・g・f・d・h・f・k・d・b・k・c・j・ふん
g・v・f・r・ん・j・g・ヴ・f・g・j・k・f・り・う・え・g・ん・f・d・k・h・r・j・ん・g・り・う・る・f
g・d・ん・r・で・げ・ん・l・!?』

意味分かんない言葉を羅列したくなる気持ちは分かるが……. スマナイ、これは現実なんだ……. .

『そ、そうなのか……. まさかそこまで変更されていようとはな。』

でも頭パーツの性能は上がったらしいぜ? 何とメダフォース《データ操作》のパーツ版らしいからな。

『確かに頭パーツの性能は上がったらしいな……. かし正

直ショックだ。』

俺もクワガタ使いとしてその気持ちは良く分かる。けど伝えることはまだ残ってる。けどその調子じゃあ無理そうだし少し休んでくれ。

『分かった・・・・・・・・』

大丈夫かな・・・・・・・・いや、俺も知った時はかなりショックだったし大丈夫じゃないだろうな。けどゴメンなロクシヨウ、まだ伝えることが残ってるから今は傍にいてやれねえ・・・・・・・・

まあブルーな気持ちになるわけにもいかないので気を取り直そう！！さて、もう一つの要素通信についてですが流石DS！！W i f i 対戦で全国のメダロッターと戦えるぞ！！更に1日一回、メダガチャコインなるものももらえるらしくそれでガチャガチャ形式でパーツが手に入るらしい。後通信対戦の形式だけど、どうやら今までとは少し変わったらしい。どこがというと以前は遊びでロボットと真剣ロボットの二つがあって、真剣ロボットの場合持ってるパーツの奪い合いだったんだけど、今回は勝ったらパーツゲットは同じなんだが負けてもパーツを奪われることはなくなったらしい。良いことなのかそうでないのかはこれから次第だがこれで皆気兼ねなく通信対戦できるな。

あと今回は公式サイトの説明を見る限り、パーツ交換はパーツ同士を交換するのではなく持ってるパーツのコピーを作ってそれらを交換する形式になったらしい。これもいいのか悪いのかはこれから次第だな。尚これはW i f i では不可だ。

とまあこんなところかな連絡事項は。申し訳ないんですが心配なので

そろそろ俺はロクシヨウを慰めに行ってきます。本編でまた会いましょう！！

メダロットDS情報!! その4 (発売まであと1月!!)

(後書き)

『・・・・・・・・』

大丈夫かロクシヨウ?

『作者か・・・・・・・・スマナイ、情けない姿を見せた。』

・ 気にすんな。それより大丈夫か、今の気分で本編に戻っても・・・・・・・・

『心配無い。そういう切り替えは得意だからな。』

・・・・・・・・スマンなあんな設定作って。

『気にするな。それより少し休ませてもらっていいか? ああいやシヨックとかそういうのではなく本編ではもう休む予定だったのでな。』

ん、そうだな。いいぜ、ゆっくり休んでくれ。

『スマンな。では作者よ、またな。』

ああ、またな。

・・・・・・・・ゴメンなロクシヨウ。本編ではこの後お前をもっと

辛い目に合わせちまう。

メダロットDS発売記念特別企画第一弾!! 【メダロット1ダイジェスト】 (前)

というわけでダイジェスト第一弾です。発売まであと7日!!

『といっても何をするんだ？企画といっても何も聞かされていないのだが……』

「んなもん分かり切ってるじゃんか。ゲームにせよアニメにせよ、新作続編が出る場合の企画つつたら一つだろ？」

題して【今までのゲーム版メダロットシリーズを振り返ってみよう
！！！！】 イエイエイエイ！！ ドンドンドンッ パパー パパーッ
」

『ああ、成程な……つまり今更ながらこの小説の世界観がつかめない人々の為にゲーム版メダロットのシナリオをダイジェスト形式で語っていくわけか。』

「ノリ悪い上にんな言い方されると身も蓋もねえな……まあ
そうだけど。で、第一弾の今回は初代主人公ヒカルさんの活躍を語
りたいと思う。」

『ヒカル殿のか！！フム、イツキの場合活躍を知らない者を探すが難しいほどになっているがヒカル殿の場合違うからな。是非とも語ってくれ、知る人ぞ知る伝説の男の雄姿をな。』

「ああ。んじゃあさっそくヒカルさんの活躍記録スタートだ！！な
おこの話は小説との関連性を持たせるために一応ゲーム版カブトV
erに即したものになってる。クワガタVerの人スイマセン。つ
て作者もクワガタVerなんだけどね・・・」

時は2010年、世界にはメダロットと呼ばれるお友達ロボットが流行しており子供から大人の様々な世代で広く普及されていた。また同時にメダロット同士を戦わせて遊ぶロボットという競技が生まれこれまた人々の間で熱狂的な人気となり、世界中の人々にとってメダロットは欠かせないものとなっていた。

だが人々の間で欠かせないという事は必ずしも良い結果だけに繋が

るわけではない。人々の間でメダロットが普及したと同時に世界には【ロボロボ団】という全身黒づくめの宇宙人の様な組織が現れ始めた。彼らはメダロットを様々な犯罪や悪事に利用しており、世界征服を目的として活動していた。それに対抗すべく世界はメダロット警察的組織【セレクト隊】を結成。正義の味方としてロボロボ団の悪事を防ぐため活動していた。

そんな時代に生まれた【あがたヒカル】は当時小学3年生。後に知る人ぞ知る伝説のメダロッターになる男だが、当時はこの年代の人間にしては珍しくロボトルどころかメダロットにすら全く興味を示していなかった。父親等からメダロットを始めてみたらどうだ？とは度々言われていたが、全く耳を貸さず愛犬ボナパルトと共に外で遊ぶ毎日だった。

そんな日が続き夏休みに入る終業式のこと、いつも通りボナパルトと一緒に公園に遊びに来ていたヒカルはこれまたいつも通り遠くに玩具を投げつけボナパルトに取りに行かせる遊びをしていた。しかし少し経ってから帰ってきたボナパルトがくわえていたのは玩具ではなく光り輝く不思議な石。それはメダロットを動かす心臓であり脳でもある【メダル】だったのだ。実はこのメダル、たまたま公園にやってきたロボロボ団の一人がボナパルトにビビって落としたものののだ。ボナパルトの持ってきたメダルを眺め、自分の友人達も皆メダロットをやっていることを思い出したヒカルは、そのメダルを拾ったことを切っ掛けにメダロットを始める決意をする。といってもこのメダルは拾ったもの、という事でセレクト隊に届け出るのだがこの時の担当さんが中々いい人で正直に届けてくれたご褒美としてヒカルは拾ったメダルを正式にもらうことになる。拾ったメダルを父親に見せ、メダロットのパーツ一式とティンペットを手に入れたヒカルはこうしてカブト型メダロット【メタルビートル】通称めたびーのマスターとなった。

そしてその日からヒカルの世界は一変した。悪ガキ三人組に絡まっていた幼馴染の【キララ】を庇い、初のロボットで勝利を収めたことを切っ掛けに彼は類稀なるロボットセンスを開花させていく。夏休みの宿題である町の探索を切っ掛けに悪の組織ロボ団の幹部と初めて出会いこれを撃破。これを機にヒカルとロボ団の戦いが幕を開けるが、それが逆に経験と成長を与えヒカルは瞬く間に町の中でも上位のメダロッターに躍り出る。他にも悪ガキ三人組リーダーの【イセキ】、後に最大のライバルになる【二毛作ユウキ】、そして彼の幼馴染にしてフィアンセの【パティ】等彼の周りには強いメダロッターが少なからずいたことも影響しただろうが、その頃には彼らとも互角以上の力を身に付けていた。

自信を付け、周りからも注目され始めたヒカルは大会に出場する。町の住人ほとんどが参加する町内大会、ここまでの過程で力を付けたヒカルにとって優勝することは苦ではなかった。そしてメダロツト博士やナエと出会ったのはこの大会の後の事。これを機に交流が生まれる。

優勝し、次に地区大会へと駒を進める。謎の美女(?)メダロツターコマチ、そしてライバルであるユウキとの激しい激戦に勝利し、ヒカルはこの大会でも勝利を収める。ナエや色んな人から祝福されたヒカルは最後の本大会に向けて更に腕を磨く。

そしてユウキと共に勝ち進んだ最後の本大会。全国から猛者という猛者が集まり最強を決める栄光ある大会。ヒカルとユウキは国内の猛者と外国からの強者たちとの激戦を繰り広げ準決勝で再び激突する。

互いにここまで勝ち上がってきた者同士、ロボットは苛烈を極めた。どちらが勝ってもおかしくない激戦、しかし僅かな差でヒカルに軍配が上がった。ユウキはヒカルのライバルであることを誇りに思いながらその場を去っていく。そして迎えた決勝の相手は何と実の父親だった。意外にも強敵であった父親だが、ユウキとの激戦に比べれば敵ではない。そして本大会に優勝し、ヒカルは最強の称号を手

にした。だが喜びは長くは続かない。なんとセレクト隊隊長であるタイヨウがコマチを攫ったのだ。訳も分からぬままヒカルはタイヨウを追いかける。そこでコマチの正体に変装したキララだと分かったのだという。自分が邪魔をした？何のことか分からず、キララを人質にとられ何も出来ないヒカル。しかし物陰からボナパルトがタイヨウへと突撃をかけキララを救い出すことに成功する。怒りに燃えるヒカルは逃げ出したタイヨウを再び追いかけて、本大会会場で戦いを挑む！！

だがタイヨウの実力は圧倒的だった。今まで戦ってきたメダロットをも上回る圧倒的なパワーとテクニク。セレクト隊隊長の座は伊達ではなかった。だがいくつかの幸運、そして勝利を確信したタイヨウの一瞬の隙を突き、辛くも勝利することに成功する。勝った……だがその時タイヨウは最後の足掻きとばかりにカブトメダルを割ってしまった。これではめたびーは……高笑いを上げて去るタイヨウを追いかけることも勝利を喜ぶことも出来ずにヒカルはその場に崩れ落ちてしまう。

壊れたメダルは直せない……父親にもナエにも、そしてメダロット博士にもそう言われてしまいヒカルは絶望する。もうめたびーは蘇らないのか……？自分に初めての相棒であり、今や掛け替えのない親友になっためたびーはもう……

だが、そんなヒカルにユウキが一つの可能性を伝える。満月の夜に遺跡の湖に壊れたメダルを沈めると復活する、という伝説を。藁にもすがる思いでヒカルはその伝説にある遺跡へと向かいカブトメダルを湖へと沈める。その時急に眠気が襲ってきてヒカルはその場で寝てしまう。そしてヒカルは夢を見る、宇宙人の夢を。アレが目覚める、止めなければ……

目覚めたときにはカブトメダルは完全に治っていた。そして近くに沈められていたもう一枚のメダル、そのメダルを見て胸騒ぎを感じ

たヒカルは急いで街に戻る。そこでヒカルを待っていたのは、メダロット達が暴れまわり人々を襲っている悪夢のような光景だった。これが後に語られる【魔の十日間事件】である。

原因も分からぬままメダロット達の手により行われる悪夢。ナエによればセレクト隊から配られたメダルを付けたメダロットのみが暴れまわっているらしい。セレクト隊から配られるメダルは初心者にも扱いやすいメダル……。かなり多くが人々の元に配られている筈だ。恐らくは普通のメダルよりも数が多い。そんな大量なメダロット達が暴れだしているということは……。!? いや、それよりもセレクトメダルを付けた機体のみが暴れているという事実が意味することは一つ。セレクト隊とロボロボ団はつながっている、いやセレクト隊とロボロボ団は同じ組織だったのだ。という事は敵の本拠地はセレクト隊の本部。それに気付いたヒカルは身を案じるナエに帰ってきたら一緒に星を見ようと約束を交わし、単身セレクト隊本部ビルへと潜入する。

予想は当たり、セレクト隊本社はロボロボ団員で溢れかえっていた。これが最後の戦いになると予感したヒカルは向かってくるロボロボ団を蹴散らしながら暴走システムを探し遂に見つけ出す。システムを制御し、メダロット達の暴走を止めたヒカルは怒りを燃やしながら最上階へと進む。途中それぞれの階の階段を守護する幹部たちが行く手を阻むが、イセキ達悪ガキ組、卑怯な手を使われた借りを返しにやってきたユウキとその応援パティ、そして助太刀に來た美少女(?)メダロット・コマチがそれぞれの相手を引き受けヒカルは遂に最上階のタイヨウの元へ辿り着く。これまでの戦い全てに決着を付けるためロボロボを開始する二人。だが一戦目よりも更に成長し、仲間たちからの激励を受け、メダロットを悪事に利用していたことに対する怒りに燃えるヒカル達の敵ではなかった。戦いを終え、愕然とするタイヨウ。

だがまだ終わりではない。タイヨウが秘密裏に開発を進めていた最狂のメダロット・ビーストマスターが全てを破壊するために起動し

始めたのだ。圧倒的な破壊力とリミッターを外されていることによつてメダルの力を100%フルに使える反則性。その反則的なまでの絶望の前に次々と破壊されていくメダロット達。希望は完全に潰えたと思われたその時、不完全故に暴走し自らの力を制御できなくなったビーストマスターにめたびーの最後の力が届いた。全ての力を込めた最後の一撃、それはビーストマスターの頭パーツをピンポイントで砕き、機能停止させた。多くの犠牲を払いつつ、ヒカルはこの悪鬼に打ち勝ったのだ。しかしビーストマスターの暴走でビルは崩壊し始め、最上階にいたヒカル達も窓から放り出され転落してしまう。最後の最後で万事休すかと思われたとき、メダルを治した時にも聞いた声が頭の中に響き、何事もなく地面に着地する。ロボロボ団との関わりが無かったセレクト隊もそこに駆けつけタイヨウも無事逮捕される。

ブツツ

「ちよっ!？」

これでいい。この先に待つ結末はカップリング関係のみ、そんなの載せてたまるか。

「ああ、そういやそうだな。この後は【キララと付き合おうか？ エンド】か【星よりもナエさんのほうがきれいだ・・・エンド】か【ひよ子売りのおっさんと夕陽に染まる海で熱く語り合う寂しいエ

ンド】かのどれかだったな。」

『最後だけ何故か悲しくなってくるな……』

「けどなんていうかアレだな。ダイジェストって言ってもこれアレじゃね？なんかイベントの順番とか変じゃね？ってか最後ぶつ切りしてつけどこれ完璧ナ……」

ちなみにイベントの順番とかが変に思われるのは、頑張って纏めようとしたけどいかんせん一番古いシリーズなんで中々に難しく、最初からやり直すには時間がかかりすぎるんでこうなった。その辺り気になる人は、まあこの小説に至るまでのヒカルさん編と考えてくれ。

「いや、割り込むなよ隠すなよ。だから作者的にはヒカルさんのお相手はナ……」

それ以上言うんじゃねえ。まあ2以降のシリーズを見る限りゲームではヒカルとナエさんの絡みってないに等しいから【キララエンド】か【ひよ子おじさんエンド】になったのかな？俺的にはこのバカが言いかけるように【ナエさんエンド】派なんだけど。けどそれは2以降のヒカルとキララの関係を見て「ああ、こいつらはずっと付き合うとかそういうんじゃなくてこう言う喧嘩友達的な間柄でいてほしい」という願望から来てるってのが一番の理由です。だって1のキララのキャラと変わりすぎなんだもん、1の時は【キララエンド】と【ナエさんエンド】でかなり迷ったけど2以降のキララとの絡みを見たら断然【ナエさんエンド】だ。

『じゃあ何も知らなかったときの1のエンディングはどっちだったんだ？』

【ナエさんエンド】

「結局変わんねえんじゃないか……」

さて、いよいよメダロットDS発売が迫ってきている今日この頃！
！発売1週間前は【メダロット1ストーリーダイジェスト】でした
！！気になった方はAmazonとか中古屋さんとかで探すが良い。
メダロットの原点だからな！！明日は【メダロット2ダイジェスト】
だ。それでは今日はこの辺で！！

メダロットDS発売記念特別企画第二弾！！【メダロット2ダイジェスト】

さて、第二弾は【メダロット2ストーリーダイジェスト】だ。

「イツキ達の一番最初の物語だな。」

その通り、恐らく全メダロットシリーズの中でも最も知名度が高いであろう皆の主人公だ！！アニメや漫画、ゲームで随分とキャラが違うが俺はゲーム派だな。

『小説のキャラやストーリーもゲーム準拠だしな。クワガタVerを手に取りれば俺のマスターにもなる素質も持っている。』

小説ではゲーム準拠に加えてカブトVerだがな。クソッ、なんでクワガタが主人公じゃないんだ・・・・カッケエじゃんクワガタ、つええじゃん【縦一閃】・・・・

「じゃあお前がその第一号になれば良かったろ。」

けどさ、マンガでもアニメでも言えることなんだけど敢えて主人公にしないことでいい味出してるって言うかなんて言うか。ある意味一番おいしいポジションというか・・・・

「でもそういうキャラって最終回直前で主人公とバトって負けたりするよな。『強く・・・・なったな』とか言って。」

安心しろ。少なくとも俺の小説内ではお前らのコンビがイツキ達のコンビと戦って負けるような展開は最初から想定していないし、そういう結末にする気もない。

絶対に存在しない神に誓って。

『まあ別にいいだろう（勝たせるとも言っていないわけだしな）。

オウ、そんじゃ始めるか。例に漏れず今回もゲーム版カブトVer
準拠だ。

ヒカルの活躍から7年後、再びロボロボ団が活動し始めた。以前程の驚異ではなくなっていたが、それに比例するようにセレクト隊も全くの約立たず集団に成下がっており、結局ロボロボ団の思うがままになっていた。

そんな時代に生を受けた【天領イッキ】はメダロットに憧れる一人の少年。週刊メダロットは毎週録画しつつ時間通りに見るようにしているし、度々メダロット研究所へ遊びに行つてはメダロットのこともをもっと知ろうとする。そう、彼はメダロットバカとも言えるほどにメダロットが大好きな少年だった。しかし悲しいことに彼はメダロットを一体も所有していなかった。メダロットどころかマスターの証であるメダロットチもメダロットに欠かせないメダルも持っていなかった。だからといって彼がメダロットが大好きだという事実には変わらない。そして今日も彼はメダロット研究所へ遊びに行く。いつものようにメダロット界の権威でもある【メダロット博士】の元に物怖じすることなく遊びに行き自分の知らないメダロットの事をもっと教えてもらおうとするが、博士とてそう暇な人ではない。

そこで博士は自分の孫娘にして同じくメダロットを心から愛する助手でもある【ナエ】をイッキに紹介する。出会ってすぐに意気投合し仲良くなった二人。楽しそうにメダロットの事を語るイッキを見てナエは自分の研究室に招待して、まだ試作段階のメダロットを見せるという大サービスをしてくれる。ひとしきり見て回りすっかり満足したイッキはナエにお礼と別れを告げて帰宅する。

家に帰り、母親からお使いを頼まれたイッキは近くのコンビニで店長に怒鳴られている一人のアルバイトを見かける。どうやら注文ミスをしてしまい頼んでもいないKBT型メダロットのパーツ一式とティンペットが届いててしまったらしい。コンビニで売るわけにもいかず、かといってKBT型は数多くあるメダロットシリーズの中でも1, 2を争うプレミアムモデルだ。思わず物欲しそうに見てしまうイッキ、だがお金もないしここにはお使いで来たのだ。耐えがたい誘惑を振り切り目的を果たそうとしたとき、あろうことかそのコンビニ店員が声をかけてきたのだ。自己紹介で【ヒカル】と名乗りイッキの名前を訊ねてから「君、このメダロットを買わないか?」と。大サービスの値段で売ってくれるというその価格は丁度渡された所持金でも買える値段。でもこのお金は・・・断ろうと口を開くが、口を挟む隙さえ与えぬ押し売りで仕方なく半分嬉しさ半分購入してしまう。家で怒られることは分かっているが遂にこれで自分もメダロットの仲間入り・・・!! 怒られることを考えると複雑な思いだがイッキは大事そうにメダロットが入った箱を抱えるとコンビニから出ていく。その後ろ姿をそのアルバイトはずっと嬉しそうに眺めていた・・・

再び帰宅し、お使いに失敗したことをこっそり叱られるがそんなことは大したことではなかった。自室に戻り、付属していたティンペットにパーツを組み立てて自分の初めてのメダロットを組み立てることに成功する。歓喜のあまり泣き出しそうになるが、その喜びは長くは続かなかった。そう、肝心のメダルとメダロットを持っていないのだ・・・すっかり気持ちが沈んでしまうイッキ。

一方その頃、仕事が終わる我が家に帰ろうとするイッキの父親はマントと仮面を身につけた【快盗レトルト】と名乗る謎の男に呼び止められていた。怪しげな風貌の男に驚きを隠せないイッキパパだったが、そんなことを気にせずレトルトはメダロッチをイッキパパに手渡しすぐに去っていく。「どうぞ息子さんのプレゼントに」と。高笑いを上げながら去っていくレトルトに呆然とするイッキパパだったが、折角のもらいものだし何より最愛の息子がメダロッチを欲しがっていたことを思い出してメダロッチを家に持ち帰ることにした。

そして再び自宅、落ち込んでいるイッキにパパがあるプレゼントを手渡す。そう、先程レトルトから受け取ったメダロッチだ。何とその中には【カブト】メダルも入っているではないか！？慌ててカブトメダルをメダロッチに装着。すると先程までの事が嘘のように動きだし始めたではないか！！こうしてイッキはメダロッチターとなった。彼の生涯の相棒、メタビーとはここで出会ったのである。

次の日、幼馴染にしてジャーナリスト志望である【甘酒アリカ】といつものように待ち合わせて学校に行く途中アリカがイッキの腕にメダロッチが身に付けられていることに気付いた。一足先にメダロッチの世界に入っていたアリカはそれを大いに喜び、初めてのロボットの相手になってくれる。イッキにとって生まれて初めてのロボット、それは最高に気持ちがいい素晴らしいものだった。パーツのやり取りはしない純粋な遊びだったが、この時点でイッキは初のロボットで勝利をおさめるという才能の片鱗を垣間見せている。その後も校庭で威張り腐り他の生徒にタカっている三人組、姉御肌の【キクヒメ】を据えて自称天才ハッカーの【イワノイ】と綺麗好きなの【カガミヤマ】の三人で構成される悪ガキ集団【スクリューズ】達とのロボットでもイッキとメタビーのコンビは圧勝してみせ、三人がかりで襲いかかってきたスクリューズを相手に無自覚とはいえメダフォースを発動して退けるなど、高い実力の片りんを見せていた。

その後色々な事件を経て出会った可憐な女の子【純米カリン】や、
イッキの永遠の親友でありライバルになる【辛口コウジ】との出会
いを経て心身共に成長していく。

スカート捲り事件、おどろ山の幽霊騒動、メダロット島での暗躍、花
園学園での悪事……

これらさまざまな事件にロボロボ団が密接にかかわっていたことか
ら、イッキ達もまたかつてのヒカルと同じようにロボロボ団との激
闘に身を投じていく。深まるメダロットの謎、ロボロボ団の真の目
的、古代の遺産フューンストーン……

様々な謎と戦いを経てイッキ達は遂にロボロボ団のアジトへと辿り
着く。一人ではない、アリカやコウジ、そしてカリン。彼らとの固
い友情と今まで培ってきたパートナー・メタビーとの絆。これらの
前に最早ロボロボ団などは数の上でしか脅威ではなかった。

しかしロボロボ団は完成させていたのだ。ヒカルと戦ったあの悪夢
を、今尚真実を知る人々の間ではタブーとされていることを。

獣王・ビーストマスター。リミッターを外され、メダルの力を10
0パーセント発揮できる兵器型メダロット。だが彼は作り手であっ
たタイヨウすら制御できぬ彼らの言うところの失敗作だった。だが
それを踏まえたうえでロボロボ団は再びそれと同じ、いやそれ以上
の機体を完成させていた。理論的には人の手で制御できる最狂の怪
物、神帝【ゴッドエンペラー】を！！

ロボロボ団の最終兵器として稼働を始めたゴッドエンペラーは、並
のメダロッター達が敵う相手ではない。イッキ達を下がらせ、かつ
てビーストマスターを降した最強のメダロッターあがたヒカルは快
盗レトルトとしてゴッドエンペラーに立ち向かっていく。圧倒的な
ロボトルテクニクを持ってゴッドエンペラーを沈黙させたヒカル。
だが悪夢はそれでは終わらなかった。ロボロボ団が開発していたも

『また変なところで斬りおったな……』

「ロクシヨウ、切るの字が違うぞ。ってそうじゃなくてこれダイジエストじゃねえじゃん!? 途中経過メツチャ端折ってんじゃねえかよ、逆に分かりにくいわ!! これこの小説に繋がるまでの話じゃねえかよ!! ゲーム版準拠だけどゲーム版のダイジェストじゃねえよ!!」

……スマン。昨日のヒカル編と違って余りのストーリーの長さに挫折した。

「ふざけんなああああああああああああああああああああああああ!!」

だってアレだよ!! 詳しく書こうと俺も思ったけど、半分くらい書いた時の文字数がこの2倍だぞ2倍!! 書けるかああああああああああああああ!! 読む方も大変じゃ!!

『ま、まあ確かにヒカル編の内容が薄いとは言わんがイツキ編の内容は濃すぎるからな。そうなのでも無理はないが……』

まあ補足としては、今回端折った間に色々な恋愛イベントがあります。【幼馴染といつまでも、なアリカエンド】か【これからもずっと君を守るよ、なカリンエンド】か、【これから皆と一緒だ!! ！なノーマルエンド】かのどれか。メダロット2はこれら3つのエンディングがあんだけどその分岐つつうか高感度はこの端折った場所で調整できるぞ。

『ちなみに作者はどのエンドだったのだ?』

俺が進めるメダロット2も小説の世界観としてもカリンちゃんエン

ド後です。1の時と違ってこれは迷わなかったな。俺と兄ちゃん共通意見としてイッキ編のヒロインはカリンちゃんだから。アリカはどっちかつうと仲間って感じだしね。異論は認めるけど俺の意見を変えるつもりはないぞ。

「作者の兄貴もカリンちゃんエンドだったのか？」

ああ、兄ちゃんはカブトVer派だけだな。最初は俺が先にカリンちゃんエンドクリアしたからってアリカエンド目指してたらしいけどキャラのヒロイン要素的にカリンちゃんエンドに乗り換えたらしい。

『成程。まあそれはともかくつまりこの小説では『イッキ君、これからもずっと一緒に……』というカリン殿のセリフを聞いている状態なのだな？』

ああ、だからなんつうかイッキとの絡みもアリカよりもカリンを多めにしてる。恋愛要素的な物はちらっと入るかもしれないけど俺の中ではイッキにとってのヒロインはカリンだから。カリンにとってのヒーローもね。

「ふーん………まいいや。で、明日はメダロット3のダイジエストだっけ？」

ああ、明日は当初の予定通り詳しく書くつもりだ。その方が小説の話も分かりやすくなるし。

「まあ、この小説は3からのキャラが大抵メインポジションに組み込まれてるからな。カラスとかカイとか。」

そういうこと。それでは皆さん、よろしければ明日メダロット3ダイジェストで会いましょう。

なお、「ゲーム持ってない」、「もっと詳しく書けやああああああ」という方は作者こと蒼騎士のブログにプレイ動画の一番最初の部分をリンクさせてるんでそちらからどうぞ。

メダロットDS発売記念特別企画第三弾!!【メダロット3ダイジェスト前編】

はい、と言うわけで第3弾!! 本日のダイジェストはメダロットの秘密に一番触れたであろう神作、メダロット3です!!

「遂にきたか!! 大抵のゲームに当てはまる公式『3作目は面白い』という公式はもちろん当てはまっているが、そういう事抜きにしても神ゲーだった最高の作品だな!!」

『お前はプレイしたことも無い、というか出来ないだろうが・・・』

だが面白い作品だったのは確かだな。メダチェンジやメダリア等、数多くの新要素が追加されそれがロボットに更なる深みを与えている。内容もメダロットの核心に触れるものだったしゲームシリーズの中では一番人気があったような気もする。』

そうだな。物語も深かったし、カラスやセルリアーノ（Bクワガタ戦）なんかは手強いのが逆に楽しかった。やっぱ実力が高い奴とロボットするのは楽しいぜ。ラスボスのブラックデビルはちよっとチートだったけどな、主に2戦目が・・・

「ああ・・・例のファーストエースの事だろ? 普通のホームシックは効果こそ厄介だけど威力は低いという基本ルールを完全無視した威力も効果も極悪なニート製造攻撃・・・アレに泣かされた奴は多いって聞くんぜ?」

『成功率も無駄に高いからまず外れることなんてなかったからな。他2体はアンチ攻撃で何とかなったがアイツだけは例外だった。1対3でも普通に互角以上に渡り合える機体だったからな。』

「1戦目のガンキングもファーストエースほどではないとはいえ厄介だったよな。あの反則的な装甲・・・プロミネンス撃って

ちょうどいいという事でスクリューズとのロボトルを開始するイッキ達だったが、直後その場にいた全員のメダロットからパートナーのメダロット以外の全てのデータが消滅してしまったのだ！！今まで集めてきたメダルやパーツ、それらが一つ残らず……博士によると原因は最近出始めた磁気嵐らしい。消えたデータの修復は出来ないと言われ仕方なく諦めるイッキだったが、イワノイは犯人を突き止めると聞かず一人で行動を開始する。心配になったイッキとアリカはイワノイの家を訪れるが、突如イワノイのパソコンから電気を体に帯びた女の子が現れ、言葉を発しながらイッキ達に攻撃を仕掛けてきた。いきなりの事にとっさに身を伏せるイッキ達、気付けばもうそこには先程の女の子はいなかった。イッキは先ほど女の子が言っていたセリフを思い返す。「人間は嫌い、全て敵だ」というその言葉を……。これがメダリンピックと共にイッキ達に襲いかかる大事件の序章だったとは、まだ誰も気づいてはいなかった。

数日後、消えたデータの穴を埋めつつイッキとアリカは無事にギンジョウ小学校の代表の座を獲得していた。だが問題の3人目は何とスクリューズのキクヒメ。一抹の不安を抱えながら二人は一回戦の舞台となり、コウジやカリンが通う花園学園へと向かう。だが、花園学園は学園長が変わったことで生徒たちにはメダロットが禁止され、それを破ったら没収というひどい校則が作られていた。カリンや、もう一人の友人であるハチロウもその新しい校則によってメダロットを取り上げられ、それを抗議に行ったコウジも相手にされずむしろ邪魔者扱いされているらしい。それを聞いたイッキ達はコウジと協力し、それぞれ情報を集めていく。奪ったメダロット達を管理していたメダロットを倒し、ハチロウに返したイッキはそこで学園長がスパイメダロットを放っていることを知らされる。特徴を聞き、何とかする方法を思いついたイッキは単身学園長との交渉に向かう。そこで自分とコウジとのロボトルを邪魔しないように言い、

合流したアリカとカリンにある頼みごとをする。

大会開始時間、順調に勝ち進んだイッキ達は遂にコウジのチームとのロボットまで駒を進める。だが、時間になってもカリンしか訪れずコウジの姿が見えない。逃げ出すような男ではないし、一体何が・・・？しばらく時間が経過し、不戦敗になるかと思われたその時ようやくコウジは現れた。しかしその姿は愛機のスミロドナットともどもボロボロだ。なんと試合に向かう途中コウジを勝たせたくない学園長の指示によって妨害を受けていたのだという。だがコウジはそれに屈せずやってきた。イッキは信じていたと言って、アリカ達との連携で試合の妨害まで使用としていた学園長のメダロット達を全員倒す。そして誰にも邪魔をさせないためイッキはコウジとのタイマンロボットを申し込み白熱した決勝戦を開始する！！熾烈を極めた激闘を制したのはイッキとメタビー、こうしてイッキ達ギンジョウ小学校は次の試合へと進めることになった。

イッキとコウジのロボットに心動かされた学園長も今までの行いを反省し、奪ったメダロットの返却と校則の改善を約束する。そしてイッキ達は「なんかどうでもよくなった」と言ってチームを抜けたキクヒメの代わりにコウジとカリンをチームに加え、こうして花園学園での激闘は幕を閉じた。

二回戦の舞台は地下実験都市・アースモール。会場へ向かう前に博士からメタビーのメダチェンジ対応発展型メダロット【サイカチス】のパーツと、メダルの原石ともいえる【六角弊石】を受け取ったイッキは、仲間たちと共に地底都市へと向かう。そこでは様々なエネルギーの開発が行われていた。

試合開始まで自由行動をとったイッキ達は、セセリという科学者の女性に地底都市内の案内をしてもらう。途中人工の花をこっそり育てる個性的なメダロットコガネとの出会いを経ながら地上では見られない様々な研究に喜ぶイッキ達。だが「最も進んで役に立っているエネルギー開発」と称された最後の発電施設を見てイッキは凍り

つく。そこには数ヶ月前激闘を繰り広げた悪夢の片割れ、プリミティベビーがいたのだ。いや、イッキにとって一度敵対したメダロットであろうが無かろうがどれもみんな大好きなメダロットである以上再会を喜びこそすれ嫌がるわけがない。だがそこにいたプリミティベビーは周りに配置されたメダルの力を取り込み、信じられないほど大きくなっていただけでなく、そのエネルギーを全て発電エネルギーに回されていたのだ。メダロットを単なる道具としか見ていないその光景に愕然としたイッキは思わず飛び出してしまった。

皆と離れ、一人俯きながら歩いていると、セセリの幼馴染のアサマという男性から声をかけられ、イッキは彼に地底の熱をエネルギーに変換する研究所へ案内してもらおう。そこで本来ならばプリミティベビーを犠牲にする方法よりも先にこの研究が進められていたことを知る。だがそれは現在に至っても上手くいかず結果、セセリが指示を出すメダロットを犠牲にする研究が主な物になってしまった・

・・・それ以外にも研究所で働くメダロットは休みも与えてもらえないような生活が続いているという。だがアサマはセセリだけに罪があるとは言わなかった。彼女は幼い頃共働きだった両親の代わりに子守用メダロットに育てられていたらしい。だがある日突然いなくなってしまうそれ以来裏切られたと感じメダロットに冷たくなつたという。事情を聞いて複雑な思いになったイッキは、なんとかセセリと当時のメダロットを会わせてあげようと思いアースモールの貸し出し用カタログからメダロットを探そうとする。そこで偶然見つけたコガネという名に反応し、花を育てていたメダロットの事を思い出したイッキは彼に確認しに向かう。

彼の口から真実を聞いたイッキは仲直りさせようとセセリの元へ向かうが、黙って花を育てている知ったセセリは憤慨しコガネから花を没収してしまう。自分の浅はかな行動を悔いたイッキだが、コガネは優しく微笑むと僅かに残った一輪を再び植えた。

メダリンピックアースモール大会が始まり、イッキ達はベストメンバーで試合に臨みその全てに勝利する。次の試合会場も決まりわく

わくする一同だが、イッキはコガネの事を考えるとどうしても素直に喜べなかった。一方その頃、以前イワノイの家に現れた少女エレクトラがプリミティベビーの元へ観視を潜り抜けてやってきていた。そして「人間への復讐をさせてあげる」と不敵に微笑んで……

コガネの様子を見に行こうとするイッキ、だが彼の前に農場を荒らす喋る不思議な猫【ビリジアナ】が現れる。ビリジアナはイッキを攪乱しまく「もうすぐこの町はなくなる」と笑ってその場から姿を消す。そしてその言葉通りアースモールは崩壊し始めた。何者かがプリミティベビーに忍び込み暴走させたのだ！！このままだとアースモールは壊滅する、急いで住人達と共に避難するイッキ達だがその中にはコガネを含む働いていたメダロットの姿が見えない。「たかがメダロット、放っておけばいい」というセセリに遂に怒りを爆発させたイッキは「メダロットだって生きてるんだ！！」と叫びメダロット達を助け出すべく一人崩壊するアースモールに戻っていく。コウジ達もイッキに協力し、メダロット達も無事救出されるが再びビリジアナが姿を現し襲いかかってくる。高い装甲を持つ見たことの無いメダロット・バサルに苦戦するイッキだが何とか勝利を収める。戦いが終わった後、怒りに顔を歪ませるビリジアナだったが、突如イッキのポケットの中の六角弊石の一枚が光り出し、ビリジアナの姿が消えてしまう。そして土の絵柄が刻まれた不思議なメダルがイッキの手に握られていた……

暴走を止めるべくプリミティベビーの元へ急ぐイッキ達、だが時既に遅く大泣きし暴走するプリミティベビーは誰にも止められない。泣き叫ぶベビーに皆が苦しんでいるその時、優しい子守唄がその場を包み込んだ。コガネのメダルが歌っているのだ。カリンの所有する歌うメダロット・スィーカマーにコガネのメダルを装着し子守唄をベビーに聞かせるイッキ達。優しい子守唄にベビーは安らかに笑いながらスヤスヤと眠りに入った。こうしてアースモールはコガネの手で救われたのだ。

イッキ達の活躍とコガネのメダルを見て今までの考えを改めたセセリはイッキ達に謝罪し、もっといい街にすることを伝える。こうして長いアースモールでの戦いは終わった。

ビリジアナが言っていた言葉や六角弊石が変化したことを伝えるためイッキは博士の元へ訪れる。が、博士とは入れ違いになってしまった時間の都合もあってイッキは仕方が無くアリカと共に次の試合場へと向かう。

周りを海で囲まれた神秘的な海底都市【アンダーシエル】、今回の会場にもなっているマーマン学園とマーメイド学園の校庭は共有されているらしいが、どうやらこの2校とんでもなく仲が悪いらしい。だが毎回毎回マーマン学院の生徒はマーメイド学園の生徒にボコボコにされているらしく悔しい思いをしていた。試合までの間、そんなマーマン学院の見学をしようと校内を回るイッキは向かってくる生徒全員をロボトルでのしてしまう。とりあえず色々回っているとマーメイド学院の子にラブレターを渡そうとしていた少年と出会う。ラブレターはノートに挟んだまま提出してしまったらしく可哀そうに思ったイッキは学院長室まで捜しに行きラブレターを取り返すことに成功する。それを持ち主に届けようとするが今度はウオナという女の子に手渡すよう頼まれ……。そんなこんなで悩んでいると今度はマーマン学院のリーダー格と思しき男にロボトルをしかけられる。が、これにもあっさり勝利してしまい……。用心棒になってくれ！！」強さを見込まれてそんなことを頼まれてしまう。前払いとしてポッドに乗れるペアチケットを貰い、とりあえず了承するが……。

その後カリンを誘おうとするが、アリカにチケットを奪われてしまい泣く泣くアリカとデートをすることに。そしてメタビーにポッドに乗った海の底で遂に春が来るっ！！とある潜水型メダロット・レイに一目惚れしたメタビーはイッキそちのけで楽しいデートへ向かう。啞然とするイッキだったがとりあえずメタビーの好きにさせて……。

なんだかんだで楽しんだ後、約束通りマーマンの用心棒としてイッキはシーフェアリーズとロボットルする。マーマン生徒が見守る中、見事勝利したイッキはマーマン生徒からの賞賛の嵐を受ける。その後暇つぶしにアクセサリ屋さんに寄ったところアrikaと出くわし、スクープの為にマーメイド学院に潜入させられることになる。もはやイッキの特技(?)とかした女装を使いマーメイド学院に潜入するイッキ。だがそこでマーメイド学院のリーダー・ウオナを倒してしまったことでポッドのチケットを前払いにマーメイド学院の用心棒にされてしまう。両方の学校から用心棒にされたイッキ、当然断ろうとするがそんな暇も与えてもらえずウオナに頼まれていたラブレターを渡すことしかできなかった。どうしようか悩んでいるとカリンと出会い、思い切ってデートに誘うイッキ。OKしてもらえたのは良いがこれで後には引けなくなってしまった。

結局打開策も思い浮かばぬまま決着の場に出されるイッキ、だがそこでドジをしてしまい掛け持ちしていたことがバレてしまう。一転してピンチに陥ったその時、マーマン校舎から一人の少年の声が！導かれるがまま声の元に逃げ出すイッキ。何とか校舎まで逃げたイッキを導いた少年は一人外に出て待ち構えていたマーメイド女子たちと向かい合って……

イッキを助けてくれた少年の名は浦島カイというらしい。最近転校してきたばかりの少年らしく、どこか不思議な雰囲気を持つ人物だった。助けてもらったのも何かの縁、イッキはカイと友達になり記念にロボットルをする。思わぬ実力を持つカイとのロボットル、久々の強敵相手に胸躍らせるイッキは終始楽しみながらロボットルをし勝利した。お互いの健闘を称え合い、短時間でも親しくなった二人大会での再会を約束し、イッキはカイと一旦別れラブレター男に手紙を渡した報告をしてからカリンの元へと向かった。

思わぬ参加者としてアrikaとコウジも付いてきたが、イッキとカリンは二人でのんびり海中散歩を楽しむ。メタビーも先程知り合った例と再びのデートを楽しみ、海中は平和だった……が、メタ

ビーの姿が見えなくなり、転送しようにも出来ない場所へと進んでしまったという。まさか危険区域に・・・？心配になったイッキはメタビーを探しに一人禁止区域に入っていく。慌てて追いかけようとしたカリンだが入口を岩で埋められ通れなくなってしまった。唯一の攻撃型メダを扱うコウジ達もずっと特訓していたせいで力を発揮できず・・・

レイに連れられ禁止区域までやってきたメタビー、追いかけてきたイッキは叱りつけるが、そんなとき異様な空気が二人を襲う。そして現れたのは半漁人の少年。自らをセルリアーノと名乗る少年はビリジアナ達と同じように「海を汚す人間を憎む」と言い放ちイッキ達の前に姿を現す。身構えるイッキ達だったが、更に信じられない者が二人を襲う。それは黒きカブト、メタビーと対をなす闇の機体。その名をBビートル、全てがメタビーと真逆だというその機体はリミッターが外されており躊躇なくイッキに襲いかかってくる！激闘を始めるメタビーとBビートル、だがゴッドエンペラー達と同じくリミッターを外されたメダロットはそれだけで普通のメダルよりも強力だ。おまけにカブトと全く同じ性能・・・いや、僅かながらメタビーを勝っているという事実。その僅かな差が逆にイッキ達を絶対的に不利な戦いへと導いた。セルリアーノのテクニクはイッキの並ぶものがあり、他の性能は全て相手が勝っている。刻一刻と追いつめられるイッキ達だったが、Bビートルに突如発生した不具合に救われる。セルリアーノは舌打ちを一つ残し、イッキを海の裂け目へと突き落とす。怒りに燃えるメタビーは一矢報いようとセルリアーノに銃弾を放ち・・・

海の裂け目から落ちた筈のイッキは目を覚ますと海の中にはいなかった。周りを見渡せばそこは暗闇、そして目の前にいるのは一人の少年・・・・・・彼は自分をスバルと名乗り、時間を操るという桁はずれな力を振るいイッキを助け出したのだ。そして次に目の前に映ったのは・・・・・・

気付けばそこは元の場合、心配そうにイッキを見守るカリン達を安

心させ、イッキ達は会場へと向かう。

少しの余裕を持って到着したイッキはカイに会いに行く。だがそこにいたカイは腕に怪我を負っていた。ひどく心配するイッキに謎めいた言葉を残すとカイはその場から立ち去っていく。その後ろ姿を見たイッキは何故かひどい不安に駆られるのだった。

マーマン、マーメイドの代表どちらにも危なげなく勝ったイッキ達は遂に最後の一戦を残すのみとなった。後一回勝てば宇宙……。だがそんなことを考えている場合ではなくなる。お互いの代表が負けたことをネタに罵り合う両学院長。そしてその姿を無様だと笑いながらカイが現れたのだ。「人と人は簡単に憎しみ合い傷つけあう。それがたとえ愛し合った者同士でも」そう言い放つカイはイッキに向けてメダロッチを構える。その姿にいやな不安が当たったことを悟ったイッキは悲しそうに首を振ったその時、前回と同じようにアムダーシエルが崩壊し始めたのだ。その光景を見て「誰にも邪魔されたくない。二人だけで決着をつけよう、海中林で!!」カイはそう言い残しイッキ達の前から姿を消した。

途中封鎖された道をクラフティモードに変形させることで突破し、イッキはある決意を固める。カイと友達になったからこそ僕がアイツを止めなければいけない、と。途中愉快気に笑いながら暴れまわるエレクトラを制し、イッキは再び海中林へと向かう。

メタビーと共に海中林へと向かったイッキを待っていたのは本性を現したカイ、即ちセルリアーノだった。イッキの絶望する顔を見るかのごとく次々と蒼き機体・ロンガンに向かってセルリアーノ。だがそれが通用しないと悟るや今度はメタビーの想い人レイを向かわせる。実はレイは海から発掘されたレアメダロットで、この海中都市を丸ごと消しされるほどの力を持った機体だったのだ!!レアメダルの力を解放し、イッキ達に攻撃を仕掛けるレイ。だがメタビーの心の声がレイを正気に戻した。

小細工は通用しない、それを悟ったセルリアーノは遂にBビートルを転送する。「決着をつけよう!!」セルリアーノのBビートルと

イッキのメタビーが再び会い見える！！再び追いつめられるメタビー、だが皆の命がかかっている今、ここで負けるわけにはいけない！！その思いがイッキとメタビーに更なる力を与え、遂にBビートルに打ち勝った。もう止めよう、とセルリアーノを諭そうとするイッキ。だが「人間は海を汚す」と言ってきかないセルリアーノはイッキの言葉には耳を貸さない。そして遂に崩壊の規模が大きくなる。レイの力の余波がアンダーシエルを完全に崩壊しようとしているのだ。もう間に合わない、いくらイッキ達が頑張っても助けられる筈がない。そう笑うセルリアーノに「皆に何かあったら・・・僕はもう君を許せなくなる」そう泣きながら呟くイッキはセルリアーノから背を向け皆の元へ走る。セルリアーノは追わなかった、ただ悲しそうにイッキの背中を見つめ続けていた・・・・・・

・

アンダーシエルに戻ったイッキを待っていたのはもう間に合わない崩壊する海中都市だった。そして遂にイッキの上にも瓦礫が・・・・

その時再び辺りが暗闇に包まれる。スバルが再び時を修正したのだ。そしてこの悲劇を繰り返さないためイッキ達を過去へと戻す。この騒動はレイがいたから起きてしまった。だからレイが発掘されなければ、あるいはレイが目覚めなければこの騒動は起きない。そう語るスバルの言葉を頼りにイッキとメタビーは過去でレイを目覚めさせようとするセルリアーノと対峙する。ロンガンに打ち勝ったメタビーはとどめとばかりにセルリアーノに銃口を突き付けるがその時再びイッキのポケットの六角弊石が輝きだす。まさかこれは・・・・・・！！その光に怯えるセルリアーノ。何とかして逃げ出そうとするが結局吸い込まれてしまいビリジアナと同じようにメダルになってしまった。メダルとなったセルリアーノの姿を見てイッキは涙を流す。「もう一つの未来では、僕たちは友達だったんだ・・・・っ！！」そう呟きながら。

そしてイッキ達はレイの本当の体、アンダーシエルの目玉でもある金魚の像にハートストーンを埋め込む。未来から持ってきたハート

ストーンによってメタビーと過ごした記憶も戻った本当のレイ。彼女は自分の使命と封印された理由を明かす。そして自分は遙か昔のメダロットだからこれ以上は現代にいるべきではないと。その言葉に悲しそうに叫ぶメタビー。だがレイはそんなメタビーの姿を見て優しく微笑み……。『ありがとう、あなたの事が本当に好きでした……。』想いを告げて本来のいるべき過去へと帰って行った……。

そして元の時代に戻り、先程までの事が嘘のように平和な光景に安堵するイッキ。どうやらメダリンピックが終わった直後どこかに消えたという事になっていたらしい。皆の無事を一人喜び、マーマンとマーメイドの両学院長の中も元通り修復させる。ラブレター男とウオナも上手く結ばれたようで、こうしてアンダーシェル編は幕を閉じた。イッキとメタビーの胸にそれぞれ忘れられない悲しい別れを残して……。

海底都市から帰って翌日。イッキはセルリアーノとの戦いで手に入れたBカブトメダルを博士に見せる。博士すら知らないメダルに益々謎が深まるが、イッキはそれだけ預けて帰宅する。そして博士は今までの事件などの経緯を考えてナエ、そしてレトルトとレトルトレディも連れてヘブンズゲートへ飛ぶことを決意する。

そして、遂にメダリンピック最終戦。イッキ達は天空としヘブンズゲートへと昇るためメダロポリス空港に来ていた。初めての空の町にワクワクが隠せないイッキ。だが目的地に着いた途端カリンの容体が悪くなりイッキ達は一旦別行動をとることになる。アリカと共に周りを見て回るイッキだったが、そんなとき一人の少年が大人に抑えられている現場を目撃しアリカと二人で救出する。自分達が捕まらないよう、慌ててその場から逃げる二人だったが助けた本人からは邪険に扱われてしまいアリカとメタビーは憤慨してしまう。アリカと別れ、カリンのお見舞いに行くイッキはそこにいたコウジ

の口から総理大臣から招待状が来ている旨を伝える。何でも生粋のロボットマニアな総理大臣はぜひとも代表選手を見たいらしい。総理からの招待を待つ間、イッキは街の中を探索し博士たちとも再会する。どうやらイッキを心配してついてきてくれたらしい。それ以外にもレトルトやレディとも合流し、最早笑いしか出てこない。

その後ブラブラしていたイッキは公園でいる筈のないスクリューズが同じくらしい年の子に話しかけている現場を目撃する。どうやってここまで……？ いや、それ以前にキクヒメの様子がなんだかおかしい。何の見返りもなく人助けを約束するとは！？ スクリューズが去ってからイッキはその子の元へと駆けよって話を聞くことにした。どうやらキクヒメとぶつかっただけらしいのだが……。？ その子がそこを去ってからイッキはある仮説を立てる。まさかキクヒメの奴……。！？

ホテルに戻り部屋に入ろうとしたとき丁度総理の出迎えの人が迎えに来ていたところだった。総理の家に招待され、食事の用意が出来るまでロボットをしようと総理が提案したのだが、残念ながらまだ対戦相手が来ていない。時間をつぶすためイッキ達はメンバー同士でロボットを楽しむことにする。コウジとアリの意外な対決や、イッキとカリンのホンワカ対決。そしてイッキとコウジのロボットが始まろうとしたとき……。「こんなおもちで遊んで楽しいか？」 そうぼやきながらイッキ達が先程助けた少年、カラスが現れた。地上人地上人とバカにするカラスに怒ったコウジはロボットを申し込むが、余裕を見せるカラスは何とイッキと二人がかりで来いと挑発してくる。イッキも流石にカチンときてコウジとタッグを組みカラスとのロボットを開始する。だが、流石大口をたたきただけの事はあった。全攻撃の中でも最も扱いの難しいサクリファイを操るG・Oデスを巧みに操り、メタビーとスミロドナットを軽くあしらってみせるのだ。だが流石に二人がかりで負けるわけにはいかない。何とか連携してようやくカラスを倒すことに成功した。

その後見事なロボットを見せてくれたお礼として総理から御馳走が

用意される。心行くまで食事を堪能し、泊っていくことにしたイッキ達はすぐに眠りに入ることにした。が、なかなか寝付けないイッキは散歩に出かけようとして、先程話した少年と思しき風貌のカモメに呼び止められる。実はカラスの妹だと告白したカモメと共にイッキは夜の散歩と洒落込むことにする。カモメとの夜の散歩中、胸の中の不安を一人こぼすカモメにイッキは励ましの言葉を投げかける。

次の日、色々観光してまわる皆と離れてイッキはカラスと友達になれるように会話を重ねようとする。だが結局怒らせてしまったのか去っていつてしまった。仕方なく見学に回るイッキだったが何とロボ団の姿が！？慌てて探し回るイッキだったが途中でレトルトと合流する。なんとそれまでのいたずらは攪乱でBカブトメダルを奪うのが目的だったというのだ。ロボロボ団らしからぬ賢いやり方に思わず感心するイッキだったがすぐに二手に分かれて探しに戻る。だがそんなイッキの前に現れたのは天使のような姿の少女・トパーシアとBビートルだった。再び襲いかかる闇のカブトだったが、ステージ的な相性かセルリアーノ程の苦戦はせず撃退するイッキ。その後逃げたトパーシアは放っておき、イッキは取り返したBカブトを博士に預けレトルトと合流する。その後何故自分にメタビーを渡したのかレアメダルとは？そういう話をし、イッキはロボロボ団の企みを阻止すべく許可をもらいに総理の家へと戻る。

しかし取り乱しているカモメの声に驚いたイッキは慌てて話を聞く。何とロボロボ団によってカラスが天国の中にある地獄・ヘルズゲートへ落とされたというのだ。本来はゴミなどを燃やしつつ施設だが、人間に耐えられる筈が無い。話を聞いたイッキはカラスを助けるべくヘルズゲートへと向かう。が、行く手を阻むエレクトラから放たれた電撃がイッキを直撃し気を失ってしまう。更に何故か関係ない筈のキクヒメのメダロッチにデータとイッキのデータが入れ替わり、カモメの兄を助けるべくキクヒメが行動を開始することになる。最もイッキの方も黙っているわけがなく、総理の家から【風の

翼】を拝借して先に進み、データが戻るまでの間キクヒメに全てを託し一人待つ。キクヒメも途中トパージアの妨害を受けるが、メタビーの力で何とか凌ぎようやくイツキのデータも元に戻る。そしてもうすぐカラスの元へというところで再びトパージアが妨害に掛かり3度目の決戦が始まる。3度目の正直としてトパージアを撃退したイツキだが、扉を開ける装置を破壊されてしまう。仕方なく最後のオプションパーツを使いクラフティモードを発動させたイツキは扉を破壊し、ヘルズゲートへと落ちる！！

ヘルズゲートで待っていたのは灼熱、そしてカラスとカラスを熱から守るために身を犠牲にしていたメダロット達の残骸だった。まだ使えるティンペットやパーツまでも捨てられている光景にやり場のない思いがこみ上げるが、今はカラスを救うことが先決。壊れたメダロット達からメダルを抜き、風の翼に乗ってヘルズゲートから脱出する！！再度向かってきたトパージアを六角弊石に封じイツキ達は無事に戻ってきた。

心配で駆けつけてきた総理達を安心させ、イツキは総理にもう二度とメダロットをごみのように捨てることが無いように頼みこむ。カラスの捻くれた答えとイツキの真摯な思いが伝わり、総理は出来るだけの事をする約束してくれた。そしてイツキ、カラスとメインメンバーがいなかったことで大会は延期になったらしい。イツキは壊れたメダル達を博士の元へ預け、カラスと共に試合場へ急ぐ！！メダリンピック最終戦、メダロットに対する考えを改めたカラスと本当の意味でのロボットをするイツキ達。最終戦だけあって試合は白熱した素晴らしいものになった。そして最後の一瞬の交錯・・・

「勝者イツキチーム！！」

長きにわたる激戦を制しイツキ達は遂に宇宙への切符を手にしたのだ！！表彰後、改めてカラスと友達になるイツキ。試合に負けた後でも、カラスの顔は今まで見た中で一番晴れやかなものだった。

そして、遂に宇宙への出発の時がやってきた。まだ見ぬ未知の体験

に燃える一同。皆がロケットに乗りこむ中、イツキは総理やカモメに別れを告げる。そして遂にロケットに乗りこみ発射する瞬間、窓の外にはたくさんのメダロットに囲まれるカラスの姿が。見送りに来てくれたのか、喜ぶイツキだったがカラスの口の形を見て更に笑顔になる。「うん、また会おうカラス!!」

そうしてイツキ達は遂に宇宙へと旅立っていった。カラスからのありがとうという言葉と共に。

仲間たちと共に宇宙へと上がったイッキ達は宇宙ステーション・ラ
ンデブーで休むことになった。準備が整うまで各々くつろぐことに
したメンバー。その間にイッキは宇宙遊泳を楽しむことにする。

しかし、ロボトル監視衛星テラカドくんがロボロボ団に占拠された
ことを知り、イッキ達は急いでロボロボ団を捕まえに駆ける!! な
れない宇宙空間の中何とかロボロボ団の元まで辿り着いたイッキ達
だったが、そこで幹部であるスルメが現れ今までのリベンジとばか
りにロボトルを仕掛けてくる。しかし数々の戦いを経験したイッキ
の敵ではなく、あっさり撃退する。だが、それは時間稼ぎだった。

今魔のの戦いの間にサケカースがテラカドくんを完全に抑えたとい
うのだ。高笑いを上げて去っていくスルメ。サケカースの居場所が
分からず動けないイッキは、攫われたというアリカのパートナーブ
ラスを探しに今度は動く。探し回ってようやくブラスを見つけたイ
ッキだったが、ブラスはたくさんの野良メダロット達に襲われ身動
きが取れない状態だった。倒しても倒してもわいてくる野良メダロ
ットに苦戦するイッキの前に再びスピリットの一人エレクトラが姿
を現す。何とか撃退したイッキの前から姿を消したことで野等野良
メダロットも正気に戻り、テラカドくんも防衛システムによってロ
ボロボ団を撃退し、一連の騒動はひとまずの終結を見た。しかし今
度は地球からUFOが飛び去ったという。そして地球人に向けて宇
宙人からの侵略宣言まで発せられ、イッキ達は遂に月へと足を踏み
入れる。

皆と少し別行動をとり、カリンと二人で散歩していたイッキはそこ
でカリンが月の海と大自然が広がっている夢を見たというのだ。そ
れを信じたイッキはカリンと談笑し、二人とも一旦空き部屋で休む
ことにする。そしてイッキは再び夢を見る。スバルが現れる夢を・

・・・

目が覚めて些細なことからメタバீと喧嘩したイツキだったが、コウジが仲裁に入り喧嘩は収まる。その光景を見て「少し羨ましい」と苦笑しながらカリンが部屋を飛び出したと聞かされ二人は月面ポッドの元へ走る。

どうやらカリンはすでに一人で月面に出たらしい。それを知ったイツキ達も急いで月面へと向かう。見渡す限りの荒野にどこか既視感を感じるイツキだったが、それを振り払いカリンの搜索へと移る。搜索を続け、ロボロボ幹部のシオカラに捕まっていたカリンを救い出したイツキ達はカリンの思いを組み、月の海を探すことにする。月面にある天体観測所で色々な情報を聞こうとするが、大した情報は得られない。だがUFOが不時着した場所と情報を聞き出しイツキ達は再び月面へと向かう。

だが荒廃した台地しかそこにはなく、海はおろかUFOの姿もなかった。肩を落とし部屋に戻っていくカリンや、それを送るコウジ達を先に帰しイツキは一人月の海の探索をまだ続ける。だが辺りには地雷が……！！

爆発に巻き込まれ、吹き飛ばされたイツキは不思議な夢を見る。流れ星、地球、そしてスバル……。全てのピースが繋がりにイツキは遂に現実でスバルと出会う。だが、そのスバルも幻にしかすぎず「月の海で待ってる」と言い残して姿を消してしまう。だがやはり月の海はあるんだ！！確信したイツキは再び皆の元へと戻り月の海探しを再開する。そして地雷を解除し、遂にイツキ達は月の海へと辿り着く。ここにスバルが……！！

イツキ達は先に進むもうとするが、その時三原則を外したメダロット達が襲いかかってくる。身構えるイツキ達だが、コウジはそんなイツキ達を先に進ませて一人で相手を引き受ける。だが三原則を外されたメダロット達に苦戦し、思うように戦えない。そんなときスミロドナットは三原則による制限を無視してコウジを攻撃しようとし、「ここは一人で引き受けます。行ってください！！さもないと私はあなたを斬る！！」そう言ってコウジを先に進ませる。一人残った

スミロドナットをメダロット達は笑うが、そんなときスミロドナットの心に響く声が。「僕の力を貸してあげるよ……」瞬間スミロドナットはその姿を変えていた。メタビーと同じく2段階目の変形クラフティモードへと！！圧倒的な力を見せつけ敵メダロットを撃破するスミロドナット。その姿はころなしに、以前よりも一回り大きく見えた。

UFOに乗りこみ先へと進むイッキ達、途中ロボロボ団ボスサケカースと遭遇しロボトルで倒した後彼の口からロボロボ団の壮大な計画が明かされる。全人類の支配、マザー・ブラックデビルの力で全ての人間を支配しようというのだ。そんなことはさせない、イッキ達はその野望を阻止すべく先へと進む。再び現れたエレクトラを激闘の末六角弊石に封印し、途中見つけたもの凄そうな機械を見つけて。メダルをはめ込む穴があるそれを見てレアメダルであるメタビーのメダルをはめ込むイッキ。そして解放されるメタビーの記憶、そして……！！

マザーやレアメダルについて全てを悟ったイッキ達はブラックデビルを止めるため最新部へと向かう。そして遂に出会った最後の敵・マブラー。少年のような身なりをしているが彼こそがスバルと対をなすマザー・ブラックデビルだったのだ！！イッキの持つスピリット達を封印した六角弊石から全てのスピリットを解放したマブラーは、その全ての力を持ってイッキを襲う！！

食べ物への恨みと襲ってくるビリジアナ、遊び半分ですべてを壊そうとするトパージア、強く人間を憎み強烈な殺意を以て襲いかかるエレクトラ。そして別の未来では友人となる運命だったセルリアーノ……4人との戦いは苛烈を極めたが、何とか再びメダルとして封印することに成功する。最後にはほほ笑んだセルリアーノも、最後までイッキを憎しみの目で見ていたエレクトラも元々は地球のフォース。人間達によって地球が汚されていく姿を見て彼らなりに苦しんでいたんだろう。イッキはいつか彼らが悲しまなくてもいいような方法を見つげ出すと誓い、マブラーとの対決に挑む！！スピリッ

トを従えていたその力は確かに強大だったが、レアメダルとしての記憶を全て思い出したメタビーの力はそんなマーブラーをも倒すことに成功する。とどめを刺そうとしたときマーブラーの目に悲しい光を見たイッキは攻撃を止めるが、マーブラーは本来の体に戻りイッキ達を倒すべく姿をくらます。慌ててマーブラーを追うイッキ達だったが、既にマーブラーは本体に戻った後だった。

ブツツ

「うおおおい！？何通とところで止めるんだテメエ！？？」

「まあ、大抵の作品はこういう場より原作をやる方がいいしな……ん、どうしたロクシヨウ？」

『ん、ああいや。アンダーシエルの下りを見て少しな……クワガタVerではあのメタビーのポジションに俺がいたと思うと、少しメタビーが辛いな。悲しい思いをしたんだろう。』

まあアレは本当に悲しかった。思わず俺も泣いちゃったもん。当時クワガタVerをプレイしていた俺はメタビーの場合とのレイへの反応の差に少々驚いていたけどな。

「いや、ロクショウが『レイさあ〜ん』とか言ったらキャラ崩壊だろ。差があんのは当たり前だ。

それより作者、スピリットの中でもセルリアーノの扱いだけ違うように感じるのは気のせい？」

気のせいじゃないよ。だって俺が書いたダイジェストだもん。一番好きなスピリットの優遇は当たり前だろ？

（ああ、だから小説でも・・・）

まあだから今の発言で分かったと思うけど、イベントの発生期間とか順番とか少々ゴチャゴチャしてるけど気にしないでくれ。大局的に見たらそう問題は無いはずだから。

（どうだろうなあ・・・）

さて、明日はメダロット4版のダイジェストだ。一応今回長くなった反省を踏まえてもう少し短くまとめようと思います。

メダロットDS発売記念特別企画第四弾!!【メダロット4ダイジェスト】

ハイ、ラストはメダロット4のダイジェストだ!!

『合間が長かったな・・・いやそれよりもゲーム版のイッキ達最後の冒険にして戦いだな。』

「クソ鉛筆がカリンちゃんを攫って、イッキやコウジにフルボッコされる話だっけ? いやあ、惜しいことしたなあ。俺も混ざって、一緒にボコボコにしたかったぜ。」

『ん? 俺はむしろイッキの女装伝説の究極系だと聞いたが。特に時代の流れを先取りし、メ・・・』

ストオオオオオオオオオオオッ!! それ以上言うなロクシヨウ!! 今回は前回の反省も踏まえて短くするつもりなんだ。そんなところにまで気をまわしてたら流石にもたねえ。

『そ、そうか。すまなかった・・・』

「め? なんだ時代の先取りって。てか女装?」

・・・アレ、俺ユウトをイッキの女装知らない設定にしてたっけ?

『らしいな、幸か不幸かは知らんが。』

「ん? 何の話だよ一体?」

いや、知らないなら別にいい。詳しいことはゲームプレイか、ニコ動のプレイ動画見りやすぐだから。

さて、そんなことよりさっさとダイジェストに移ろう。まあプレイ動画上げてから実際必要ないだろ? とか聞こえてきそうだがそこは目をつぶってください。んじゃあダイジェストスタート!!

メダロット社にてメダロット検定なるメダロットのことをどれだけ知っているのかを測る試験が実施された。イッキはその雑誌でその情報を知りメダマスターの事について興味を示す。今まで自分は数々の戦いを経験してきた。時には楽しく、時には命がけの戦いもあった。・・・・・・ロボロボ団やゴッドエンペラーとの死闘、メダリニックや数々の大会での激戦、そしてスピリットや宇宙のメダロット達との戦い・・・・・・始めた時期こそ皆より遅いかもしれないが、今となってはイッキ以上に数々のロボトルを経験した人間はいないだろう。

そう苦惱する、イッキのクラスに一人の女性が新しく担任としてやってきた。名を闇雲リュウコ。美人だが鋭い眼光と冷たい雰囲気をも併せ持つ彼女はイッキ達クラス全員のメダロットの育成具合を測るという名目で全員のメダロットを一旦回収する。困惑する一同だったが、仕方なくリュウコ先生にメダロットを預けることにする。

葉を言われて黙り込んでしまう。「貴方達の育成はまるでない。そんな生ぬるい育成では『メダマスター』の称号は手に入らない。それでも失ったデータを取り戻したければ返す、だがそれは負けを認めたという事よ・・・」無論クラスの人間は失われた自分たちのデータを取り戻すべく先生の元へ向かう。幼馴染であるアリカも取り返しに行こうとするが、イッキだけはその場に俯いたまま動かない。

そう、イッキは一からやり直すことを決意したのだ。本格的にメダマスターを目指すために。無論、後悔が無いといえば嘘になる。だが、それでも今の自分ではメダロットの事をきちんとわかっているとは言えないから。そんなイッキを見てアリカもまた一からスタートすることを告げる。こうしてイッキとアリカはまた一からメダロットを始め直すことになった。

だが数日後、事態は急変する。イッキの親友であるコウジが通う花園学園に北にあるカメラマ小から謎の不良集団が現れたのだ。自分達を『コクエン親衛隊』と名乗る彼らは、高いロボトルの実力を見せて花園学院の生徒たちを次々と倒していく。それを聞いたコウジと学院長のシメタは学院を守るべく戦うが、そのとき何も知らずに登校してきたカリンが驚く暇もなく捕まってしまう。コウジはカリンを救い出すべくイッキに助けを求め・・・

ギンジョウ小学校に赴任してきた新担任、花園学園に攻め込みカリンを攫った謎の集団。この二つの事件はイッキを再び大きな戦いに巻き込むことになる。この時はまだ予想していなかった・・・

アリカ、コウジと共にカメラマ小学校へと向かうイッキ。途中またまた復活したロボロボ団によって川へと落とされたり、途中のロボトル道場にて様々な戦いを繰り広げたり、カンちゃんと再会したり、謎の少年ミズチに助けられたりと色々なことが起きるが、一行は遂にカメラマ小へと辿り着く。そこで再開したヒカルに憧れるイッキの友人【波島りんたろう】と再会し今この小学校はコクエンによつ

て圧政を強いられているらしい。それを聞いたイッキ達はりんたろうと彼の所属するメダロット部、そして反四天王勢力のレジスタンス【リバティーズ】と協力してコクエンとの戦いに挑む。自らを四天王の【玄武のコクエン】と名乗るだけあって中々の実力を誇るコクエンだったが、イッキ達の絆の前では敵ではなかった。イッキ達に敗れたコクエンは捕まることなく逃げ出すが、カメヤマ小の平和はこれで戻った。だが肝心のカリンは西方に位置するシンラの森と呼ばれる少年少女が自給自足で生活している村を超えたトラニシ学院に連れて行かれたらしい。イッキ達は今度こそカリンを取り戻すべく西へと目指す。

一旦それぞれの家に帰宅し再度準備を終えてからイッキ達はシンラの村へと足を進める。そこは自分達と年の変わらぬ少年少女達が親の助けもなく一生懸命働いている場所だった。だが、そんな中他とは毛色が違う少女が一人。もしかしたらリバティーズのメンバーか？そう考えたイッキはその少女、舞茸キノコにリバティーズ専用の合言葉を使うが反応がいまいち。この子はリバティーズではない・・・？だがそれを切っ掛けに仲良くなり一緒にシンラの森を回るが、そこでロボロボ団幹部サラミの正体、サラミツオと戦う事になる。今までと同じくあっさり勝利するイッキだったが、数が多い。そんな苦戦するイッキの姿を見てキノコは仲間を呼びミツオを撃退する。やはりキノコはリバティーズだった。キノコはまた会いましょうという台風の様になっていく。

その後、皆と別れ情報収集に励むイッキは学院の前で複数人に囲まれる個性的な少年を見かける。慌てて助けようとロボトルで彼らを撃退するイッキは助けた少年と友達になる。その後それぞれの集めた情報やリバティーズとの協力で【白虎のハクマ】が統治するトラニシ学院へと潜入したイッキ達。途中ハクマの側近であるビャクヤによって投獄させられたり、彼らなりのメダロットのあるべき姿の演説などを聞いてイッキは再びメダロットについて考えさせられる。

だが、イッキもイッキの信念に基づきその考えを否定しハクマとの戦いに挑む！！だが何とハクマの正体は先程友達になった少年だった。友達と戦いたくはない・・・二人の間に全く同じ気持ちが生まれるが、それでもお互い譲れない者同士イッキとハクマはロボットを通じて対話する。どちらが正しいのかなど誰にも分からない、だがこの場において勝利したのはイッキだった。ロボットを通じてイッキの気持ちを知ったハクマはもう一度考え直してみると言い、カリンが南の四天王の元へ連れて行かれたと語る。ここも外れだった・・・イッキ達は今度こそカリンを救うことを誓う。外で実はリバティーズリーダーだったキノコと合流し、南で会おうと約束してイッキ達は再び帰宅する。

そしてイッキ達は砂漠を越え、南のジャクナン小へとやってきた。途中考古学者のアカガネ教授との出会いや流砂に落ちてフューンストーンを見つけるという稀有な体験を果たす等ここでも様々な出会いと経験に遭遇し、イッキ達は辿り着いた。キララのアイディアで美しいものしか入れないという条件をクリアし、イッキ達はカリンと【朱雀のシュリ】を探す。途中ジャクナン小生徒でもあるキノコと合流し、搜索を続けるイッキ達だったが、三原則を外されたフラインゲンメダロットに襲われてしまう。レトルトが駆け付けたことで窮地を脱したイッキ達だったが、イッキ達を庇ったことでレトルトが怪我を負ってしまう。それでも先へ進めというレトルトの言葉にイッキ達は頷き、そして遂にシュリと対面する。因縁のある相手という事でシュリと激しい口論と今にも弾けそうな火花を散らすキノコ。そしてシュリが守るような形で後ろに控えるシュリ・・・両親がおらずずっと孤独だったキノコは一人が嫌だった。だからカリンは渡さない、そう言い放つシュリに引くわけにはいかないといッキはコウジ、キノコと共にロボットを挑む。激戦を制しイッキ達は勝利するが、シュリは負けを認めずメダロット達を脳そうさせようとする。イッキ達の声は届かず暴走するシュリの前にアカガネ教

授が現れた。なんと彼はシュリの父だという。寂しい思いをさせて悪かったと謝る教授の胸で子供の様に泣き始めるシュリ。カリンも取り戻し、これで長い戦いが終わった・・・・かに見えた。シュリが去り際に「ビーストキングはリュウトウ学院にいる」と言わなければ。

カリンの事を差し引いたとしてもここまで関わった以上事態を無視するわけにはいかない。イッキ達は四天王の最後の一人とその裏で糸を引く黒幕との決着をつけるべく情報を集める。そんなとき海でトライアスロン大会が開かれ、イッキ達も学校行事として参加するがそんな中メダロットを道具として扱う者を見て、更に再会したミズチから「三原則がある限りメダロットに真の自由は無い」と言われ、ハクマとの対話や今までを振り返って再び悩んでしまう。確かに三原則のお陰で自分たち人間は安全だ。だがそれを当たり前のように受け止め者として扱ったり人の奴隷のように扱っていいのだろうか。メダロットは友達、そう主張するイッキでさえ三原則がある以上メダロットとの間では平等ではない・・・・

本人たちはどう考えているのだろうか？イッキはメタビーに三原則の必要性の有無を尋ねる。珍しく深刻に悩みを打ち明けるイッキにメタビーもまた真剣な答えを返す。「俺は三原則があってよかったと思う。もし三原則が無かったらその気が無くたって大切な人を傷つけてしまうから」と。メタビーの考えを聞き、少しだけ気持ちが軽くなるイッキ。今はまだよく分からないがいつか答えを出せる日が来るのだろうか・・・・

そして数日後、事態は佳境を迎える。イッキとアリカにリュウトウ学院から招待状が来たのだ。コウジやカリンの元にも届いたらしい招待状を手をイッキ達は遂にリュウトウ学院へよ進む！！

そこで出会った学院長オロチの提案で親善試合や学院内探索を行ったイッキ達。途中イッキは1VS1でのロボットをミズチに申し込む。そこで初めて本当のパートナーを使用して戦ったミズチ。その

姿は青竜・・・？三原則を外して理想郷をつくろうというミズチの誘いを断るイッキ。その答えを聞いてもいずれ答えも変わると不敵に笑うミズチ、イッキはその姿を見送るしか出来なかった。

そして4人はある部屋に連れてこられる。どういう意図で連れてきたのか疑問に思う一同だったが、突然リュウコ先生が帰りなさいと言いだし始めた。一体何が・・・？その時裏切り者と叫ぶ声と共にミズチが動き出す。何とイッキ達は実験台として呼ばれていたのだ。敵のアジトに占有するどころか逆に罠に嵌められた・・・。窮地に陥るイッキ達。バラバラにされ、それぞれピンチを迎える中、遂に自らの正体を明かした【青竜のミズチ】とイッキは激突する！

！謎の装置を使い、6体ものメダロットを同時に操り、三原則は必要ないと叫ぶミズチにロボットル、精神共に追いつめられるイッキだったが、激闘の末何とか勝つことに成功する。何故ミズチは三原則の廃止にこだわるのか？明かされるミズチの過去、それは三原則のせい自らのパートナーを失った過去から来ていた。三原則が無ければあいつは死ななかった！！そう怒りをにじませるミズチに慰めや道場など何の意味もない。だがイッキは現在持っている自分なりの答えをミズチに打ち明ける。それを聞いたミズチは・・・

本当の黒幕であったオロチを止めるべく走るイッキ。途中残りの四天王やキノコに助けられイッキは仲間と共にオロチと対面し激突する！！だが、オロチの考えはミズチやハクマと違う。三原則を無くしてメダロットを自由にするのではなく単なる世界征服。そんなものは認められない！イッキは自分のパートナー達の力を信じ、遂にビーストキングを撃破する！！これで終わった・・・だがビーストキングはまだ諦めなかった。自らの誇る最終兵器・グレインを起動させたのだ！！全てを破壊する兵器として誕生したグレイン。ゴッドエンペラーをも上回る危険性を持った機体を一体どうやって止める！？苦悩するイッキにリュウコ先生は一体の機体を託す。そう、グレインと対をなすもう一つの究極の機体・パーティクルを・・・

「やっぱり途中で切るのか……」

『確かにふざけたほど要約されているからな……（メイドに女装した件とか）』

「ん？何か言ったかロクシヨウ？」

「……まあいい。けどまあこの戦いの後もイツキの戦いは続くぜ？ベルゼルガやブロッソメールが出てくる悪魔騒動があるからな。まだこの時点じゃメダマスターにもなっていないしな。」

「そうだな・・・まあそこら辺は作者のブログに貼った動画で見
てもらおうぜ。もしくはレッツプレイ!!」

『後数日も経たずに新作が発売されるがな。まあ新作をやった後に興味を持ち旧作をプレイするのも悪くはないだろう。』

「……いや、この小説含めると俺達まだまだ現役なんだけどもな。」

細かいことは気にすんな。それでは皆さん長い間お付き合いありがとうございました！！これから小説本編とブログで会いましょう！！

「『...シゲル』」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9625h/>

メダロットΩデータ

2011年11月15日02時46分発行